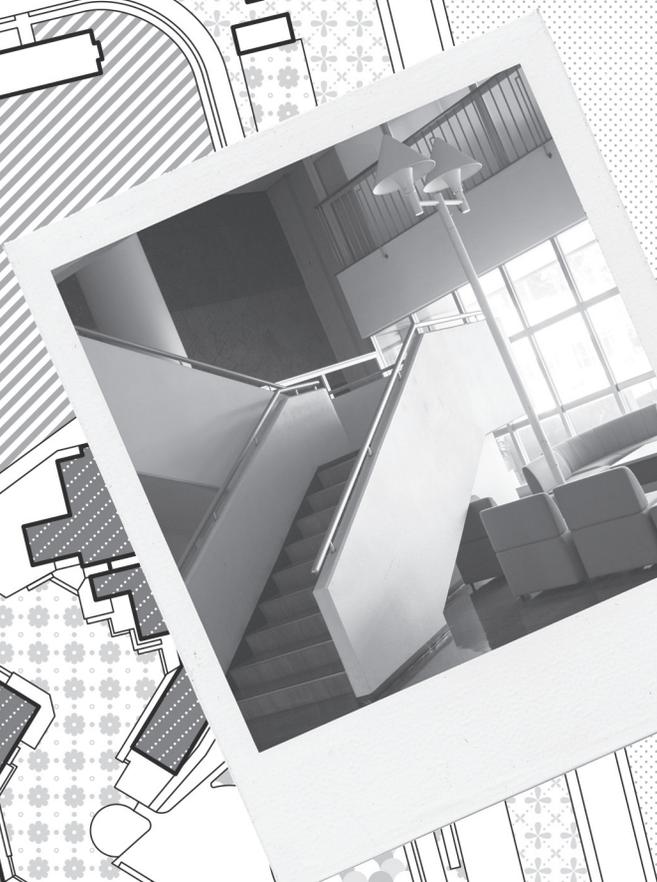
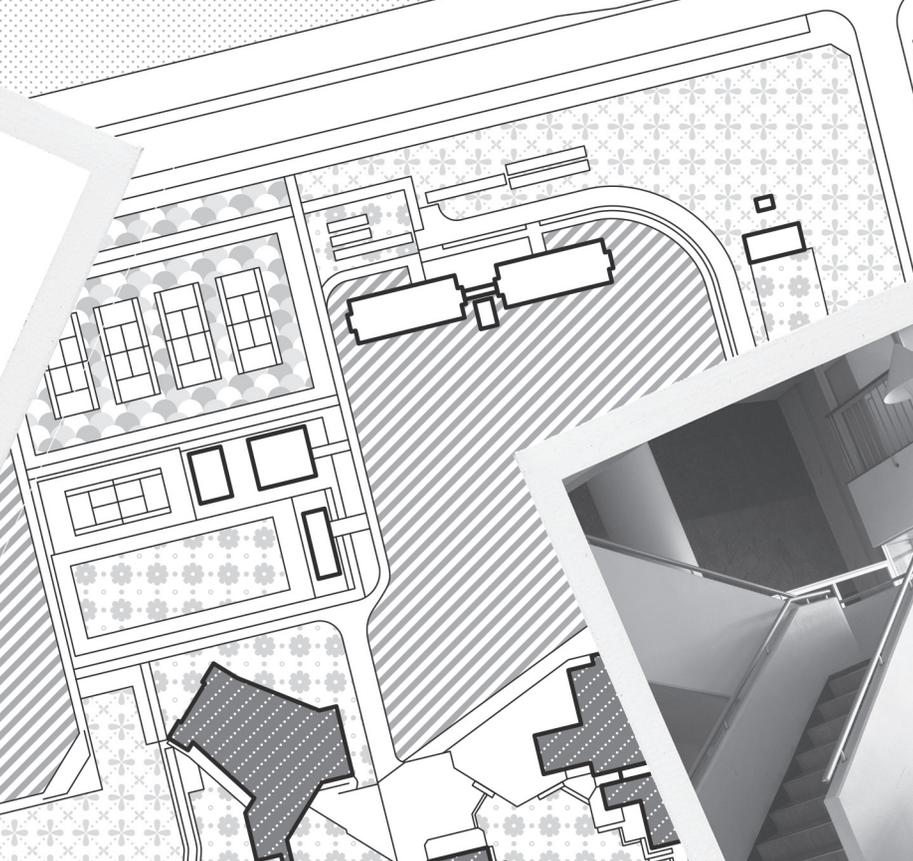


Kasuga Life

2013年度 かすがらいふ夏号

Vol. mid summer 2013



目次

2013 年度 かすがらいふ夏号 (Kasuga Life - Vol.mid summer 2013)

1. 学類紹介

知識情報・図書館学類
情報メディア創成学類

2. 授業紹介

全学類共通科目（英語・体育）
専門科目

3. 専攻紹介

4. 合格体験記

知識情報・図書館学類
情報メディア創成学類

5. 生活体験記

春日宿舍
アパート
自宅通学

6. サークル

7. アルバイト

8. 筑波大学の1年間

9. 学費・奨学金・宿舍費

10. 筑波大学の施設

11. 春日エリアの施設

12. 筑波大学附属図書館

13. 用語集

はじめまして。

「かすがらいふ」を手にとっていただき、
ありがとうございます。

この冊子「かすがらいふ」は、
春日キャンパスに通う
情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の
学生によって作られた
受験生のみなさんのための情報誌です。

1. 学類紹介

知識情報・図書館学類

学類長 長谷川 秀彦

ようこそ、筑波大学春日エリア、そして知識情報・図書館学類に興味を持っていただきありがとうございます。今日一日で、より興味が深まってくだされればそれは嬉しいことですが、そうでなくともわれわれがここで何をしているかを知っていただくことは大いなる幸せです。

さて、みなさんは何か高価な物を買おうとするとき、あるいは元に戻れない選択をするとき（たとえば、ピアスの穴をあけるとか？）、いろいろと情報を集め、悩んで決断をくだすはず。多くの場合、最初の思い込みが勝つかもしれませんが、それでもそれなりに悩むはず。学校の選択だってそうだったはず。小中学校は、義務教育で学区も決められていて、お受験をするのでなければほとんど選択肢はありません。中学卒業時には、高専とか、高校、あるいは就職という選択肢があったはず。高校も、普通科、商業科、工業科とか、国公立の別、あるいは共学か男子校、女子校といったものがありました。それでも、多くの場合は、自宅から通える範囲という制約があったはず。

大学のときはどうでしょう。大学説明会に来てくださったということは、大学短大専門学校などへの進学、海外留学、就職などの中から、筑波大学への進学を考えてくださっているわけです。大学を選ぶといったとき、

- ・大学でどんな内容のことを学ぼうとするのか
- ・大学生という時期をどこでどう過ごすのか

という二つの大きな選択を同時にしなければなりません。そしてその決断は、人生を大きく決める一歩になるのかもしれません。

大学で「何を学ぶか」にはいろいろな説明があります。たとえば、数学を学ぶとか、知識情報学を学ぶとか、学問分野での説明があります。ロボットを作ったとか、コンピュータのソフトウェアを作ったとか、調査をしたとか、いろいろな文献を読んで理論を考えたとか、方法による説明もあります。図書館の本から学んだとか、ラーニングコモンスの助けを借りて学んだとか、友人との対話から学んだというのもあります。情報は図書やインターネットにあるので、図書館が使いさえすれば大学なんて行かなくても大丈夫？そんなことはありません。同じような興味を持った人と人との対話から学ぶこと、人に説明できてはじめて納得できること、大学という場でしか得られない体験があるはず。大衆化によって問題点がいろいろと指摘されていますが、それでも大学という場でしか学べないことは存在します。一人孤独に文献やデータから学びとるとするのは凡人には困難な学習で、それを凡人にも可能にするのが大学という教育機関です。

さて、「どこで過ごすのか」です。今回は、自宅を離れて一人暮らしのチャンスです。大都会にでて、一人暮らしを満喫するという選択肢もあります。しかし、どの地域に住むか、どんなタイプの家に住むか、隣にはどんな人がいるのかなど、楽しい反面、決断を求められることや不安なことが山ほどあります。つくばなら、多くは一人暮らしビギナーの大学生、そして最初の一人暮らしは学生宿舎と、自由度と同時に悩み事も大幅に減らすことが可能です。交通機関は使わなくとも、壁をノックすればすぐコンタクトがとれます。難し

いレポート、大丈夫、3軒隣の友人が教えてくれるでしょう。友だちと一日おきに食事を作り合えば、労力半分で、料理の腕の切磋琢磨まではかかれてしまいます。自宅通学でも、たまには友人のアパートに泊めてもらいましょう。とにかく、高校時代までとは大きく違う生活ができるはずです。

今の時代、大学で学んだことがそのまま未来永劫役に立つとは考えられません。大事なことは「一つのことをきちんと学ぶこと」ではないでしょうか。一つのことをずっと深めてプロになったり、また経験を糧に他の分野を開拓したり、どちらの道も有りでしょう。就職で言えば、一つの会社に定年まで勤めることと、新たな仕事を開拓し続けることのようなものです。つくばで暮らしたら、次はどこへ行こう？そのままつくばに残ったり、故郷に帰ったり、新天地に向かったりと道はいろいろです。世界は広く、どんな可能性があるかはわかりませんが、そのころのみなさんは一人暮らしビギナーではありません。一人暮らしの苦労や失敗は大学生のときに経験済みです。大学時代の経験、友人は一生の財産になるはずです。

「かすがらいふ」には、大学生進行形の学生が書いた「学ぶこと」と「生活すること」のガイドです。すべてがこのとおりとはいきませんが、この中からみなさんの将来「こんなこと学びたい」、「こんな生活したい」というチョイスの参考にはなるでしょう。大人になると身の回りの世界は広がります。より広い世界の一つとして春日エリア@つくばを活用してください。そして、もっと広い世界に羽ばたいてってください。不幸にして、つくばがみなさんの選択肢から漏れてしまったと

しても、「つくばはこんなところ」とか、「つくばはよさそうだ」と知人に薦めていただけると確信しています。

どうか、今日は楽しんでいってください。

情報メディア創成学類を目指す皆さんへ

受験生の皆さんの世代は、子どもの頃から大規模な Web と携帯デバイスが存在し、日常的に手元から世界につながっている環境に育った最初の世代として歴史に記憶されるでしょう。一般に、あらゆる革新的技術は、社会的な影響力を普遍化するために数十年を必要とします。蒸気機関、電気、自動車、テレビ、電子計算機などすべてそうです。Web は約 20 年前に誕生しましたが、皆さんの世代と共に成長し、現在では想像を絶するほどの膨大な情報やデジタルコンテンツが日々新しい方法で Web 上を流通しています。携帯デバイスの普及により何時でも何処でも皆さんはそれらの情報を消費し、自らも発信し、コミュニケーションをとることが日常となっています。今まさに、20 世紀末に生まれた革新的情報通信技術が社会への影響力を普遍化する現場に我々は立ち会っているのだと思います。

この新しい情報化社会を支え、リードする技術者を養成するために設立されたのが情報メディア創成学類です。最近では、世界中のあらゆる才能がグローバルに発掘され、活躍できるすばらしい環境が整うとともに、膨大な数の才能が世界中で競争するたいへん厳しいとも言える状況になっています。また、情報通信技術の恩恵により、個人の力を何千倍・何万倍にも増幅して発信することが可能な時代です。これからは、他の技術者が持っていない先を見据えた技術や知識、ユニークな才能、あるいは個性が尊重され・試されることでしょう。本学類では、従来の情報通信技術に関する徹底した教育に加え、情報化社会で流通する情報(すなわちコンテンツ)を生み出し・活用し、蓄積・流通させるための技術を学びます。これらは、今生まれつつある新しい情報化社会のど真ん中で必要な技術です。また、実際の社会に役立つシステ

ムやコンテンツを自ら創造／設計できる才能を重要視しており、企画力などの総合力を養成するユニークなカリキュラムを提供しています。さらに、広い範囲のバックグラウンドを持つ約 30 名の専任教員とのふれあいは皆さんの個性をきっと磨くことでしょう。

情報メディア創成学類は 2011 年 3 月に初めて卒業生を送り出したばかりの新しい学類です。学類自体も現在成長中であり、小さな頃から空気のように情報通信技術を使いこなしてきた皆さんの影響を受けてこれから大きく育つ学類だと考えています。我々と共に学び、考え、悩み、新しい社会を支える技術を生み出したいという皆さんのチャレンジを心よりお待ちしております。

2. 授業紹介

大学の授業ってどんなもの？春日の学生はどんなこと勉強するのかな？

そんなあなたの疑問に少しではありますがお答えします！

今回の紹介はあくまで執筆者の受講した講義の印象ですので、参考程度にお願いします。

※以下の文中では知識情報・図書館学類を「知識」、情報メディア創成学類を「メ創」と表記します。

全学類共通科目

英語

必修教科

情報学群の3学類（情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類）合同で講義があります。4月に行われるプレイスメントテスト（クラス分けテスト/マーク式）でA1～C2の6つのクラスに分かれます。英語がすごくできる人はSクラスなんていうクラスにいきます。どのクラスも予習・復習が大変なものは大変だし、楽しいものは楽しいみたいです。正直、先生と使用する教材次第です（今年は教材に『シャーロック・ホームズ』を使っているクラスもあります）。こ

れは講義を受けてみないと何とも言えないところではあります。

講義は週に3回あり、それぞれ読み書きや聞き取り、会話の学習ををします。高校で身に付けた英語の能力が衰えてさえいなければ、どうにかあります…多分。でも思っているより英語力は衰えているものなので、入学試験合格後も少し勉強しておいたほうがいいと思います。特にAC、推薦合格者は、合格してから入学までの間が長いので、勉強しておかないと、苦しむことになるかもしれません。

体育

必修教科

「え、大学って体育あるの？」…あります。

1年生と2年生の必修科目です。学期ごとに種目を選択して受講します。運動が苦手な人でも初心者向けの種目を選べばとても楽しいです。そして筑波の体育ではニュースポーツ、フィットネス・トレーニング、シューティングスポーツなど普段聞きなれないような競技も体験できちゃいます！

運動設備が揃っているので体育は充実していますよ。

第二外国語

知識は必修、メ創は必修ではありませんが受講可

【フランス語】

フランス語は二つのクラスに分かれます。フランス語の授業は会話中心です。私の受講している先生はフランスのあれこれについて教えてください、面白くて素敵な先生なので、講義が楽しいです。授業の雰囲気がい感じなので、私は講義中リラックスできています（笑）。テストは、頑張りましょう。

【ロシア語】

ロシア語は第二外国語の中で一番人数の少ない言語です。他の第二外国語はクラスが分かれていたりするのに比べ、ロシア語は1クラスでも席が余るほどです。そのため先生との距離がとても近い講義で、よく話しかけられます。課題は毎週出たり出なかつたりしますが、プリントを読んできたり埋めてきたりする簡単な課題です。テストは講義をちゃんと聞いていれば解ける問題なので、文法さえ覚えてしまえば割合楽です。何より楽しいので、迷ったらぜひロシア語にしてみませんか？

【スペイン語】

ス페인語は発音の際の規則が多いですがそれに慣れてしまえば発音自体は英語よりも容易です。スペイン語は週に2コマあり、一方で文法を勉強し、もう一方では実際に問題を解いていきます。それぞれ先生が違い、スペイン人の先生もいらっしゃるので本場の発音を知ることが出来るでしょう。

【ドイツ語】

ドイツ語は週に2コマあり、一方は文法、もう一方は会話を主に勉強します。文法は教科書を読みながら講義を聞き、練習問題を解いて、と、中学の英語の授業と似たようなものです。試験はペーパーテストで、文法学習の確認が主です。辞書がないと解けない問題も多いので、辞書持込み可。会話の方では表現を覚えて、クラスメイトや先生と実際に受け答えをすることを主に行います。試験ではペアの子と指示された内容の対話をしました。学年末にはドイツ語検定もあるそうです。

【中国語】

中国語は文をみて意味はだいたい分かってても、発音が難しいです。春学期の半分くらいは発音練習だけに費やしました。課題は予習で語句と読み方調べ、復習で練習問題がありました。テストは教科書から出題されるので、形式を知ればそこまで難しくありません。最後に、中国語履修者の鬼門、アチーブメントテスト（学習の到達度を確認するテスト）は実施日が近くなると授業で解説を受けますが、こつこつ勉強していないとつらかったです。

※この他にもアラビア語、朝鮮語なども受講可。ただし知識では必修科目の単位には含まれません。

総合科目 I

【フレッシュマンセミナー】

通称フレセミ。筑波大学はクラス制を採っていて、知識情報・図書館学類は4クラス、情報メディア創成学類は2クラスに分かれます。

フレセミでは高校でのHRのような感じでクラスメイトと仲良くなったり、担任の先生の話の聞いたりします。他にも先輩や支援室（事務組織）の方の話の聞いたり、中央図書館の見学に行ったりもします。クラスの人たちとは長い付き合いになるので、ぜひここで友だちをいっぱい作りましょう！

総合科目 II

自分の学類以外の講義を受けられるのが、筑波大学の特色であり魅力のひとつ。興味のある講義を数ある中から選択できるのがこの総合科目です。学生が広い視野を養うため、ABCの3種の科目群から講義を受講します。

ここでは、開設されている授業の一部を紹介します。総合科目シラバスには様々な科目名が載っているのでご参照ください。

◆科目群 A

物質、数理、生命、環境等に関わる科目で概ね理系分野

【日常生活の中で見られる神経筋疾患】

脳血管障害、アルツハイマー、プリオン病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、小脳変性症、変形性脊椎症、重症筋無力症、多発性硬化症、末梢神経障害と、非常に濃い授業です。医学的な知識のない学生に1から紹介するためかなりのスピードで進みますが、MRI画像や模式図をプロジェクターで見ながら結構詳しく話してくれるので楽しいです。特に中枢神経系の病気は未知のことが多くて、私はとても満足しました。

【森林】

複数の先生によるオムニバス形式の講義で、森林の役割、病気の発生と広がり方、日本とオーストリアの森林におけるスキー場の違いや「ロシア人は森林から何を学んでいるか？」まで幅広く教えていただけます。受講定員が250名と多く、主にスライドでの授業なので（プリント配布もありますが）置いて行かれないようにするには集中力が必要です。

【生活を支える工学システム】

私たちの生活を支えている通信技術やロボット技術について、複数の先生が最先端の内容を教えてくれるオムニバス形式の授業です。先生1人あたり1～2回の講義で、それぞれの研究分野についての授業をしてくれます。自分の研究分野について話すので熱が入る先生も多く、また全く詳しくない人にもわかりやすく面白く説明して下さるので、とても楽しい授業です。

【古典に学ぼう！ 日本と東洋世界】

文系には癒しの時間。先生方がオムニバス形式で、それぞれ「源氏物語」「日本永代蔵」「老子」など異なる時代の日本と東洋の古典について語ってくださいます。興味があると楽しい話がたくさん聞けて面白いです。古典が好きな人は是非。期末試験有り。

【知的財産のしくみ（著作編）】

その名の通り著作権についての授業です。中学校や高校で習った著作権についてより詳しく学ぶことのできる授業ですが、大学生が触れることの多い学術論文に関する内容が中心になっています。ちなみに受講希望者が定員を超えた場合、知識の人から履修が出来なくなりますので要注意。私は知識でしたがなんとか生き残りました。

◆科目群 B

精神、文化、社会、歴史等に関わる科目で概ね文系分野

【戦争と平和の国際社会】

現代の国際社会を考える上で鍵になる「難民」「紛争」といったトピックについて、様々な角度から考察を加えるオムニバス形式の授業です。「平和とは何か」「正しい戦争とは」「難民問題の糸口はどこに」といった月曜日の朝っぱらから考えるには重いテーマが続きますが、とても胸に残る授業です。テロや革命といった言葉が飛び交う昨今のニュースを見る目も養われます。

◆科目群 C

文系と理系が融合したより広範な主題からなる科目

【アカデミック・コミュニケーション】

担当教員の野村港二先生をはじめ、さまざまな先生がご自分の研究分野について解説して下さる授業です。それぞれの専門分野について知るといよりも、自分の専門外のことと自分の専門を関連づけて捉えること、専門外の人に対して説明する技を学ぶことなどができる授業でした。私の記憶にとくに残っているのは「データにだまされない方法」（グラフの読み取り方）、「様々な知識の融合」（高校で習った文理にわたる基礎知識と、大学での専門知識）、「科学とは何か」などです。受講者数は多くなく、毎回質疑の時間が設けられているので発言しやすいです。

【スポーツを変えた発明】

スポーツ界にはすごい「発明」をした先人たちがいた！ バasketボールの誕生、高跳びの背面跳び、野球の変化球…他にもラジオ体操の歴史や水分補給の通説の変化などそれぞれの分野の最前線の先生からためになる面白い話が聞けます。成績評価はレポート提出。

【競馬の世界】

この授業では、賭け事ではなく、スポーツ競技としての競馬を学びます。さらには、東京にある国立競馬場に見学にも行き、トップ騎手の方と握手したりもできます。

このような貴重な体験ができるのも筑波大学だけですよ！！

専門科目

専門科目とは、各学類がそれぞれの学類生に向けて開講している授業です。ここでは情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の専門科目を紹介します。

知識情報・ 図書館学類

【図書館概論】

図書館について学びます。知識情報・図書館学類に来る人には図書館に興味を持っている人が多いですが、この授業を受ければ図書館の役割や活動の豊富さに驚くでしょう。先生が世界各地の図書館を紹介してくれるので、きっと新鮮な経験が得られるはずですよ(・ω・)!

【情報数学】

情報技術を扱うために必要な数学を学びます。内容としては、論理と集合やベクトルなど数学A・Bの分野に近いです。毎年、文系理系問わずこの授業に苦戦するといわれています……(/_;)。先生の丁寧かつ、論理的な解説をしっかりと聞きましょう(´・ω・´)そして、テストに向けて助け合いの輪をつくりましょう。

【情報基礎】

パソコンやネットワークといった情報技術の仕組みについて学びます。自分はパソコンだめだから…(/ω\)という人も大丈夫。先生が基礎からやさしく丁寧に教えてくれます。終始穏やかな授業の雰囲気は、レポートやサークルに忙殺される学生たちの大きな癒しです(*´ω`*)

【知識情報概論】

普段私たちが何気なく扱っている知識や情報の本質について学ぶ授業です。「知識のフレーム」や「ドキュメント」など知識情報学、図書館情報学の専門用語が頻出し、その扱う内容ゆえに哲学チックな授業なので、好きな人にはたまらないはず。回を重ねるごとに、この授業の味がくせになってきます。……時々〇〇概論になるのは内緒(-ω-)

【情報リテラシ実習】

あなたはグループでプレゼンテーションをしたことがありますか？あなたは自分のおすすめの場所などについてパンフレットを作ったことがありますか？この授業はリテラシ、読み書きの能力を向上させるのはもちろん、人前でプレゼンテーションをしたり、自分の作ったパンフレットの魅力を紹介したりします。

【哲学】

ミレトスの自然哲学から論理実証主義までを学びます。高校で倫理を選択しているみなさんはより深く学ぶことができますし、そうじゃない人はソクラテスの考え方を理解することから始め、さまざまな思想を見ることができます。先人たちの思想を知り、さらに自分の思想を深めることができるかも。

【基礎数学A】

高校数学でⅢCを履修していた人はおなじみ、そうでない人は微分・積分の応用と考えたほうがわかりやすいかもしれません。今まで何気なく扱ってきた関数や無限の概念を理解し、他の関数や微分・積分との関係を考えます。情報数学は論理や集合、ベクトルが中心でしたが、こちらは関数などが中心です。

【統計】

統計って言われても何の事だかさっぱり…という人もいるでしょう。でもスタートはみんな同じようなものです。平均、中位数、最頻値というちょっと聞きなれないものから、ある仮説が正しいかどうか検定をしたりします。世の中には嘘つきなデータが転がっています。この授業を通して、あなたの統計データを見る目も変わることでしょう。

【プログラミング演習】

「え、プログラミング？」と目を疑って人もいるでしょうが、間違いなくプログラミングです。知識を共有するシステムにはプログラミングが欠かせなくなってきました。教室にいるかなりの人数がプログラミング初心者なので安心してください。プログラミングはパソコンとにらめっこしたり、テキストを見ながら自分で考えたりと自分との戦いになることが多いですが、先生や先輩、友だちが協力してくれることもありますのであきらめないで！

情報メディア 創成学類

【コンテンツ表現演習】

この授業は画像処理について学ぶ「平面表現」と構成力を養う「空間表現」に分かれて行います。

「平面」では、画像処理ソフトを使ってポスターを作ります。線の引き方や写真加工といった基礎的なことから教えてもらえるので、初心者でも全然心配ありません。毎週の課題は楽なものではありませんが、しっかり毎週こなして先生の評価を真摯に受け止めていけば、素人目にも明らかなほど技術が向上します。

「空間」では、チームでのモビール制作を通じて空間デザインを学びます。毎週試作を提出して評価を受けなければならず、多くのチームが授業時間外にも集まって制作を行なっています。作業量は非常にシビアですが、そこで得られる団結力や空間デザインに対する造形感覚は絶対に将来の役に立つでしょう。最後には各々の作品を春日の施設内に飾る「もびいる展」を行い、招待状なども自分たちで用意して外部の方に見てもらいます。

なお、二年次に「情報デザインⅠ・Ⅱ」を履修したい場合はコンテンツ表現演習の履修が必要になります。

【情報数学】

情報数学では主に、集合・命題についての考えや、その考えをコンピュータに理解させるための方法を学びます。講義は2時限連続で行われ、1時限目に講義、2時限目に演習（教科書の演習問題）と小テストをやります。この科目は高校でやった数学Aの「命題と証明」の発展と思われるものも扱っていますが、大抵は新規に覚えるものばかりです。

【解析Ⅰ】

やってきました、みんな大好き数学です。解析とは、つまるところ微分積分の応用です。微積なんて高校生で終わりだと思っていたあなた、情報メディア創成学類へようこそ！やはり大学の数学、読めない文字や記号がやたらめったら登場します。しかし要は単なる微積です。しっかり定義を確認しながら、使っていく練習をするとよいでしょう。長い定義も段々と覚えて使えるようになります。

【線形代数】

線形代数では、主にベクトルや行列についての考えを学びます。講義は2時限連続で、1時限目が講義、2時限目が演習となっています。ベクトルは数学Bで扱うベクトルについての復習が中心ですが、行列では数学Cで扱うものよりも新たに出てきた考えなどを中心に扱うため、数学Cと同じだと思って取り組むと頭が混乱します。

【情報メディア概論】

これから4年間にわたって学ぶべきことの、はじめの一步をつまみ食いしていくような授業でした。Rubyを使ったオブジェクト指向とか、PL/0を使った計算機の原理とか、Javaを使ったGUIプログラミングとか、HTTP通信とか、HTML5/CSS/JavaScriptとか、SSHとか。

理解できなくてもまず手を動かそう、というモットーのもとコードをひたすら書き写すことの多い授業でした。(何か1つ詳しく調べて学期末にレポートを書く必要はありますが)。

企業のセミナーもありました。AdobeとかWolfram(Mathematicaの)とかAppleとか。

毎回白紙の紙を渡されて感想や質問などを自由に書き込んで提出することで出席を取っており、次の授業のスライドの中で回答してもらえます。

【コンテンツ応用論】

社会の第一線で活躍している方々をお呼びして講演をしていただくオムニバス講義です。ゲームクリエイターや映画監督、プロデューサーやメディアアーティスト、コミュニケーションデザイナーやビジネス産業など、様々な業界から錚々たる講師の方々がいらっしゃいます。質問をしたり自分を売り込んだり目標ができたりと、自分を見つめ直すいい機会でもあります。

【教養と科学】

情報メディア創成学類に所属している教員や外部の方が、自分の研究を題材にして紹介講演を行います。講演者との質疑やレポートなどによって、学類に関連する技術や研究の動向を学びます。この授業のなかで自分が研究したいことを見つけていくのもよいかもしれません。

【コンピュータリテラシ・

コンピュータリテラシ実習】

この2つの授業は基本的には同じ授業として扱われ、皆さんもよく知るインターネットの使い方からHTMLによるホームページ制作や、Linuxの操作方法などといった人によってはあまり馴染みのないことまで学びます。コンピュータリテラシでは、コンピュータがどう動くのかなどを理解するために2進数や論理回路などについて知識として学び、コンピュータリテラシ実習では実際に手を動かすことにより実践的な面を学びます。

3. 専攻紹介

前のページまでは1年次で行われる講義を紹介してきました。

知識情報・図書館学類には三つの主専攻があり、3年次になると、「情報経営・図書館主専攻」「知識科学主専攻」「知識情報システム主専攻」のいずれかに属します。「情報経営・図書館主専攻」は社会に、「知識科学主専攻」は人間に、「知識情報システム主専攻」は情報技術にそれぞれ焦点を当てています。ここではそれぞれの専攻について紹介します。

■情報経営・図書館主専攻

情報経営・図書館主専攻は「社会」に焦点を当てた主専攻です。さまざまな知識をどのように社会に活かしていくかについて学びます。図書館もその知識を社会に流通させる施設のひとつとして捉えています。

講義も「社会」に焦点をあてたものが多いです。知識情報サービス（図書館もそのひとつです）の運営やその中身に関するもの、知識情報を社会に伝えていく教育に関するもの、知識情報を支える法律に関するもの、書物の文化に関するもの、メディアが社会に与える影響を考えるものなどがあります。詳しい講義名が知りたい人は「知識情報・図書館学類パンフレット 2013」の3ページを見てください。ここに書いてある文章はそこに書いてある図をすごく噛み砕いて極力わかりやすくした文章です。それでもわかりにくかったらごめんなさい。

生きていく上で必ずかわりを持つ「社会」へ、「知識」を使ってどのようにアプローチをしていくかを考えるのはものすごく楽しいです！

【情報サービス構成論】

レファレンスサービス、という言葉を知ったことがあるでしょうか。程度や内容は図書館にもよりますが、基本的には図書館員が利用者の疑問・質問の解決のお手伝いをするサービスのことで、この科目では、レファレンスのプロの先生が、主にレファレンスサービスについてがっつり（でもさりげなく）叩き込んでくれます。毎回ビデオも見ます。内容はしっかりしているのですが、ストーリーがなかなかシュールで楽しいです（笑）。

【情報経営・図書館実習】

前半では指定された雑誌の中から好きな論文を2つ選び、それぞれ10分間のプレゼンテーションにまとめて発表します。準備は計画的にしましょう。そう、計画的に。論文を読み、発表し、質疑応答を行う力が身につきます。論文の読み方や発表の仕方は最初に教えてくださいますので安心を。後半では興味のある分野に分かれ、グループ研究を行います。何を研究したいのか考え、必要な知識を得ることのできる科目です。

■知識科学主専攻

おそらく一番何をやっているのかが分かりにくそうな知識科学。そこではどんなことをやっているのでしょうか？

知識科学主専攻は「人間」に着目します。知識科学主専攻では、知識・情報と人間とのかかわりについて学ぶことができます。これだけだと漠然としていて分かりにくいかもしれませんが、具体的には、「そもそも知識や情報って何なの?」とか、「私たちはどうやって情報を探すんだろう?」といったものです。さて、これらの疑問を解決するには、さまざまな分野の知識が必要です。そんなわけで知識科学では、文系・理系を問わず、非常に幅広いジャンルの授業が開講されています。

【知識科学実習】

知識科学実習では、数週間ごとに担当の先生が変わり、質問紙調査や Moodle を用いた e-learning 教材（電子教材）作成などいくつかのプロジェクトに、主にグループワークで取り組みます。主専攻の仲間と一緒に知恵を出し合い、協力して仲良く授業を進められるのが魅力的です。前述したプロジェクトのほかにも統計処理ソフトの SPSS や R などを用いてあれこれ分析したり計算したり。2年生までに学んだことを活かす場でもあるので、研究で質問紙調査をするときの前提知識として量的・質的調査法を履修しておくことをお勧めします。

【テクニカルコミュニケーション】

皆さんマニュアルってご存知ですよね？ 携帯電話やテレビを買ったときや、お家にある電化製品が壊れたときに、引っ張り出してきて頼りにする“あれ”のことです。“トリセツ”とも言いますね。マニュアルには製品の使用方法・手順や困ったときの対処法などが載っています。この授業では、ズバリ、専門情報を正確にわかりやすく伝える方法を、マニュアル制作を通して学んじゃいます。演習では Twitter も使うので楽しいですよ！

■ 知識情報システム主専攻

春学期必修である知識情報システム実習では、グループごとに出したアイデアを元にシステムを開発し、プレゼンテーションを行ったり、HTML5 を用いたアプリケーションの作成などを行ったりします。その他に主専攻で開設している科目には、Web プログラミング、情報サービスシステム、知識資源の分析といった、システムを設計する際の考え方やそれらを構築するための技術、システム内でのデータの扱い方などを学び、習得する科目が中心となっています。

【Web プログラミング】

この授業は講義と演習の2本立てで行われます。まず講義でサーバ側プログラミングやクライアント側プログラミングの基本的な事項を学習・理解します。その後、Web の機構を用いて情報提供をするようなプログラムを、演習として実際に作成します。座学では理解しきれないことも、実際に演習をすることで、楽しく考えることができます。演習は全部で3回あり、そのうち2回レポート課題が課されます。テストは論述形式で、様々な Web の機構等の原理や仕組みへの理解が問われます。

【知識情報システム実習】

この授業は、基本的にシステム構築を行うことが中心になっています。春学期は、前半はグループに分かれデータベースを使うシステムを構築し、後半は個人で HTML5 を使ってゲームや予定表などを作成し、最後に発表します。秋学期は「電子図書館」「電子書籍」「Java」の3グループに分かれ、それぞれの課題を進めていきます。プログラミングなどが苦手でも、グループの仲間と助け合って作成するので、とても楽しい授業です。

4. 合格体験記

「春日民※になりたい」

そう思う方もいらっしゃるでしょう。頑張ってください！かすがらいふ編集委員会一同応援しております！！でも、ふとこんな疑問にぶち当たるのではないのでしょうか。

「受験ってどうすればいいの？」

それはみなさんが一回は持つ疑問、焦りだと思います。春日民も経験してきました。「ACの対策って…」「推薦の面接どうしよう…」「二次対策はいつから始めればいいのか…」「小論文がうまくかけない…」

わからないことだらけではないのでしょうか。でもこれらを乗り越えられなければ、楽しい楽しい春日民にはなれないのです…。では、先輩の春日民は受験をどう乗り越えたのでしょうか。

ここからは学類ごとにAC、推薦、前期、後期を経験したばかりの1年次の人にその経験談を書いていただきました（だいぶ個性豊かなところがありますが）。先輩たちがどのように受験を乗り越えてきたのか、どう自分なりに受験を乗り越えるのか、この合格体験記を読んであなたなりに考えてみてください。

※春日民…春日キャンパスに通う学生の通称。

◆知識情報・図書館学類

前期入試・文系

知識情報・図書館学類 平松 淳

高校生の皆さんこんにちは！知識情報・図書館学類1年の平松です。かすがらいふの受験記として、僕の受験生時代の記録を書かせていただきます。少しでも参考になれば幸いです。

.....

【高校時代の過ごし方】

まず、僕が本格的に受験勉強を始めたのは、高校2年生の10月ごろでした。体が丈夫でなかったため部活を体力的に続けられなくなり、部活を退部した時期でした。高校1年生の定期試験では数学で学年最下位をとったことも・・・ですから本格的に受験勉強を始めたといっても最初の半年くらいは何をしたらよいのか、どこから手を付けたらよいのかが分からず、ただダラダラと効率の

悪い勉強をしてしまっていたかもしれません。

とにかく、そんな成り行きで始めた受験勉強ですが、まず最初に始めたのは数学を高校一年生の分野からやり直すことでした。恥ずかしながら、「たすき掛け」を完全に理解したのは高校2年生の秋ごろです（笑）。数学は広い分野にわたる知識を要求される問題もたくさん出ますし、なにより数学Ⅰ・Aの知識は数学全体の基礎にもなって

いるので受験生でもやり直す価値は十分にあると思います。ただし、その成果が目に見える形が出るまでには時間がかかるかもしれません。僕の場合は結果が出始めたのが高校3年生の5月の校内模試のときで、なんと学年1位をとることができました。「数学が苦手で点数もほんとにひどい、授業も何言ってるのか全く分からん」という方が

もしいたら、最初からやり直してみてもいいでしょうか。ちなみに、このとき僕が使っていたのは数研出版の「黄チャート」です。受験勉強をしていく過程で様々な参考書に手を出してしまいましたが、振り返ると数学はこれだけで十分だったと思います。

【試験対策】

センター試験についてです。センター試験での受験科目は5～6教科7科目と標準的です。特徴をあげるとするならば、理科の科目のうち理科総合Aを受験することが可能な点です。僕は理科総合Aを受験しませんでした。友人の話では高校3年生の11月から始めても8～9割の得点を狙えるそうなので、「絶対に知識情報・図書館学類を受ける！」という方は是非活用すると思います。他の科目の勉強に使える時間も増えます。知識は筑波大学の中でもセンター試験を比較的重視していると思われるので、センター試験で失敗しないことが合格への近道なのではないでしょうか。知識はセンター試験のボーダーラインが約76%なので、学校で行われるセンター試験対策をしっかり受けて復習することを繰り返せば十分に通用します。

最後に、二次試験について書きます。文系型の前期試験、特に僕の場合は英語・数学・日本史の3科目で受験しました。こちらについては科目ごとに注意すべきこと、勉強法をあげていきます。

まずは英語についてですが、筑波大学の英語の二次試験は基本的に解きやすい問題の出題が多いです。注意すべき点としては、長文の文字数が多量なので長文に慣れておくことが必要な点、近

年は最後の大問で出題される英作文の形式がよく変わるので、英作文はいろいろな形式の対策をしておいたほうがよい点があげられます。

次に数学についてです。知識情報・図書館学類の場合、数学は大問2つを2時間かけて解くという試験形式がとられているので、解くスピードについては気にしなくてよいと思います。問題の難易度も標準的なのですが、出題形式が他の文系大学とは異なりクセがあるように感じるのも、赤本などで過去問をよく確認するとよいです。

最後に日本史についてです。これは日本史に限らず筑波大学の社会の試験科目すべてに言えることなのですが、試験の出題形式が400字の記述問題×4問という鬼のような形式です。ですから、筑波大学を受験する可能性がある人はセンター試験の対策と並行して記述問題の対策も行うことをお勧めします。実際に僕の場合はもとの第一志望の大学では二次試験に社会の試験がなかったので対策をしておらず、非常に苦労しました。勉強の仕方についてですが、僕は山川出版の日本史の教科書を読み、筑波大学・京都大学・東京大学・大阪大学あたりの過去問を解いて、学校の先生に添削していただいていたいました。

【一言】

以上で僕の受験記は終わりです。もし少しでも参考になれば幸いです。受験生の皆さん頑張ってください！

◆知識情報・図書館学類

前期入試・理系

知識情報・図書館学類 千葉勝仁

【受験のきっかけ】

高校3年の春、塾の先生と進路相談をしていた時、「文系寄りの理系の学部ないですか」と質問をしたところ、知識情報・図書館学類を紹介されたので、自分で調べなおした後そのまま、志望校を筑波大学に決定しました。

.....

【高校時代の過ごし方】

志望校が筑波大学の知識情報・図書館学類と決まったのが4月だったので、受験勉強は筑波大学にあわせてしていました。僕は電車に30分ほど乗って学校に通っていたので、その時間を英単語の勉強に充てていました。4月～6月のあいだは勉強をしない日も多々あり、友達と遊んだりもしていました。本格的に勉強を始めたのは夏休みからで、それまでは高校1・2年の復習とセンター試験の対策を主にやっていました。

夏休み中は、週1日くらいで休日を作りながら毎日7～8時間位勉強をしていました。そのときに気を付けていたことは、体調を絶対に崩さないことです。勉強のしすぎで体調を崩すのはとても無駄なことだと考えていたので、体調が悪いときは、無理をせず休むことにしていました。

9月からは、本格的に2次試験の勉強を始めました。電車内で英単語をやることは変わらず、学校が終わってから3～4時間勉強していました。

勉強内容は、この時期から2次試験の勉強を本格的に始めたので、国立大学の過去問です。筑波大学と同じくらいのレベルの大学の過去問をやろうと思ったので、千葉大学の過去問をやっていました。他にも、私立大学の過去問を何校かやっておきました。また11月位までに併願する私立大学をリストアップして、12月にはどこの大学を受けるかをすべて決め、受験日程を確認し募集要項を取り寄せておきました。

12月の冬休みが始まる1週間前位から、センター試験の勉強を始めました。この時期は国立の2次試験や私立大学のことは考えずに、センター試験のみに集中していました。また、冬休み中に願書を書きあげておきました。この時期はインフルエンザも流行る季節なので、夏の時以上に体調に気を付けていました。

センター試験が終わってからは受験日順に私立大学の過去問を2、3年分解き私立大学に備えました。この期間で一番つらかったのは、センター試験が始まってから筑波の前期試験が終わるまで約1ヶ月近くあったので、その間集中力と体力を持たせることです。

受験生になってから一番気を付けていたのは、学校に行くことです。中には学校を休んでまで受験勉強をしている人もいましたが、学校は友達と会うため、受験勉強の息抜きをするための場として、必ず通うようにしていました。常に勉強の毎日では気が滅入ってしまうので、息抜きの場は必ずあった方がいいです。

【試験対策】

僕は理系受験なので、センター試験科目は、英語、国語、数学ⅠA・ⅡB、物理、化学、現代社会、の6教科7科目で、2次試験は、英語、数学ⅠA・ⅡB・ⅢC、物理で受験しました。

教科ごとにやっていたことを書きます。

数学

特に特別なことはやらず、ひたすら自分の苦手な範囲の問題を解いていました。一つ心がけていたのは、公式は暗記するのではなく、自分の力で導き出せるようにしておくことです。

物理

とりあえず公式の暗記は必須です。絶対に覚えましょう。あとは、多くの問題を解くことが大事だと思います。

英語

まず最も基本となる英単語は、1年生のときから1冊の単語帳をやりこんでいました。単語は英語をやる上で最も重要なものの一つなので、特に力を入れていました。次に英語を読むことになれるため、高校入試の英語の問題集(薄いやつ)を読みました。

現代社会

現代社会の単語帳を買い、センター試験の過去問を解くなかでわからない単語が出てくるたびに、確認していました。正直、冬休みに一番時間をかけていたのは現代社会でした。(センター試験で1番点数が悪かったのも現代社会でした…)

化学

ひたすら暗記していました。

国語

理系なので特にアドバイスはできません…

センター試験当日は結構緊張しますが、始まってしまえば一気に終わりますね。当日役に立ったのは、熱さまシートです。意外と室内が暑かったので、頭がボーっとしないように試験中貼っていました。私立受験は試験日程が連日にならない方がいいです。2日連続ならまだいいですが、3日連続になると、試験を受けるのが本当に嫌になります。

最後に、受験票と筆記用具だけは絶対に忘れてはいけません！

.....

【一言】

まだ夏ということで、受験生はこれからどんどん伸びる頃ですね。この時期は、きついかもしれませんが頑張りましょう！くれぐれも体調を壊さないようにお気をつけてください。

◆知識情報・図書館学類

後期入試

知識情報・図書館学類 梅宮 朝雪

【後期受験に至るまで】

中学3年生のときに図書委員の仕事をきっかけにここを志望して以来、志望を変えることはありませんでした。親の方針が「行きたいところだけ目指せ」だったこともあり、高校2年生のころに知識情報・図書館学類だけを受けることを決意。模試の成績は最後まで前期C判定、後期D～E判定だったので前期で受かるしかないと思っていました。

センター試験では全教科少しずつ失敗した結果得点率68%、センターリサーチの結果は前期C判定、後期E判定。それでも当初の予定通り前期後期ともに知識へ出願。数学の失敗と世界史の知識不足で前期不合格。ほぼ浪人覚悟だったものの、当たって砕けろで後期受験でした。

【後期入試について】

知識の後期はセンターの得点がものを言います。なんせセンター：小論が900:200ですから。ところがセンターが615点だった私の話をしましょう。前期を受けた2日後ほどに後期対策を始めましたが、正直これは200点満点とっても受かるかどうか、だと思っていました。それでも自分の興味のある分野の小論文を書くのは楽しかったので、過去問や先生にもらった問題（慶應の過去問など）を解いていました。

さて、前期試験が終わるまで、私は小論文模試を受ける以外とくに後期の勉強をしていませんでした。模試を受けても復習していませんでしたし。私が小論文を書く上で役にたったと思ったのは、図書館や情報メディアに関する本を読んでいたこと、小論文模試を受けていたことの2点です。

知識の小論文で出題されるのは、「本とは」「知識や情報とは」という問題が多いです。したがって、そのような話題の本を読んでおくこと小論文中で「～～のような例もある」と主張に説得力を持たせられますし、文章の感覚が身につきます。

模試の利点は、自分が文章を書くペースを身につけられるということです。書きたいことの要点が決まった後、何分ぐらいで何文字書けるかを知っておくことは重要だと思います。私は後期入試のとき、残り時間15分ほどになった時点で400字の小論文をほとんど書き直すことを決めました。それまで書いた小論文は冗長すぎて、自分の主張がいまいち伝わっていないと感じたからです。成績開示を見ると合格最低点からたった4点上の成績で、あのとき書き直していなかったらと冷や汗ものでした。

小論文はとにかく先生に添削していただきましょう。コツとしては「自分の立場を明確にすること」「自分の主張にものすごく自信があるかのような書き方をすること」「読み手に誤解させないような、正しいわかりやすい日本語を書くこと」です。字を濃くはつきりと、原稿用紙全体からドヤ顔な雰囲気を感じられるように。

【最後に一言】

まず、後期入試を受けることにならないよう祈っています。前期がんばってください。
そして是非言いたいことが一つ。「受験直前になれば誰もが死ぬ気でがんばる」は幻想です!!

合格体験記等を読んで、センターから二次の間必死でかつてないほど勉強したというくだりがあり、自分もそうなるだろうと思っていました。しかし結局、死ぬ気ではがんばれないままなんとなく勉強して二次試験を迎えてしまい、前期は不合格でした。

やればできる、土壇場になればがんばれる、は危ないです。普段から少しでも余計にがんばった方がいいです。(それができれば苦労しない…ハイ)

前期失敗したあかつきには、一ヶ月弱だけ後期のためにがんばってみてください。ギリギリでも受ければいいんです。

.....

【おすすめの本】

本や情報について、読みやすいものを2冊紹介します。
「ブックビジネス 2.0ーウェブ時代の新しい本の生態系」
「動員の革命ーソーシャルメディアは何を変えたのか」

◆知識情報・図書館学類 AC 入試

知識情報・図書館学類 脇田 萌佳

【受験のきっかけ】

さてみなさん、AC入試ってどんな試験だと思いますか？ ……「AO入試みたいなもんじゃね、なんでちょっと名前変えたのうける」と思ったそこのあなた！それは大きな誤解です！

入学後、他の受験方式で入学した同期とAC入試について話してみると「国立でAOあるのめずらしいよね」「自分すごい、みたいなのを書くやつでしょ」「なぜC(笑)」「なにそれ初めて聞いた」「なんか賞とかとったりした人が受けるやつ？」などと言われることがほとんどでした。なぜCなのかは置いておくとして、AO入試とAC入試は同じ自己推薦型の入試ではありますがその内容はまったく違うものです。自分すごいってテンションだけで受けたらたぶん受かりませんし(これはAOだってそうです)、受賞歴はたとえそれが全国レベルのものだとしても合否には直接影響しません(私は何も受賞歴はありませんでした。受賞歴があってもだめだった人もいます)。

このように入学した人でさえほとんどがはっきりとは分からない、それがAC入試です。ですから私の体験記の前にAC入試について少しだけ説明させてください。(※すでに22行を消費)

AC入試は筑波大学が独自の方式で行っている、筑波大学にしかない入試形式です。この入試では「問題発見・解決能力」と「筑波大学のこの学類で絶対に学びたい、という強い意志」と「将来への明確な目的意識」が問われます。学類ごとに定めているアドミッションポリシーもありますが、この3点は全学類共通です。そしてこれがAC入試のすべてと言っても過言ではありません。それ以外に特に条件はないんです。現役、既卒、社会人経験者かは問いませんし、一応提出はしますが高校の成績も合否には影響しないようです。とにかくさっきの3点を分量・形式規定なしの自己推薦書(これについては後で詳しく触れます)と800字の志望理由書で証明します。

…ここまで「受験のきっかけ」という見出しを全力で無視して書いてきましたが、AC入試がどんな入試なのかなんとなく分かってもらえましたか？ だったら嬉しいです。それが私がこのページを担当する上での一つの目標だったので。…ではそろそろ本題に入りましょう。

私が知識情報・図書館学類の受験を決めたのは中学2年生のときです。私の通っていた学校は中高一貫の私立女子校で、図書館の充実にとっても力を入れていて、常に専任の司書の先生が2人常駐していました。その人たちと話したり、活動的に働く姿を見たりしているうちに「学校図書館司書」という仕事に興味を持つようになり、自分も2人のようになりたいと考えるようになりました。そして中2のとき、そのためには私は何をすればいいんだろうとふと思っていろいろググったり電子辞書で調べてみたりしたところ、昔「図書館情報大学」という大学が存在したこと、そしてそれが今の「筑波大学知識情報・図書館学類」だということを知り、ここを目指すと決めました。

AC入試自体は高3の夏休み直前まで受けるか悩んでいました。一般入試で受ける気でしたが、AC入試のアドミッションポリシーを読んでいると「何か実績があるわけでも成績がいいわけでもないけど、特定分野への関心の強さや物事を多角的に捉える視点には自信がある！」という私のような受験生のためにある入試な気がして心惹かれてしまっただけ。けれどAC入試の倍率の高さを考えると、何事にも人より時間のかかる私が高3の夏に1万字を超えるAC入試の書類作成と受験勉強の両立をすることは、あまりにリスクが高すぎました。…が、いっぱい悩んだ結果、「どうしても知識に行きたいんだからチャンスを増やすつもりで頑張ろう」という考えに至り、受験を決心しました。

【高校時代の過ごし方】

受験勉強と図書委員の仕事と弓道をとにかく頑張っていました。

たしか模試の成績は高1の4月はD判定で、高3の4月はB判定だったと思います。国語と数学が得意で英語と日本史が苦手というよく分からない人でしたが一応文系でした。学校の成績が残念すぎて(評定はかろうじてB段階)、高3のクラス分けで国立クラスに入れてもらえず私文かつ学年1のおバカクラスにいました。他のクラスがぴりぴりムードの中「バカなりに一生懸命がんばろう!ハハッ」って感じで唯一明るい空気だったので、今思えば私の性格的にあのクラスの一員じゃなかったら受験勉強は頑張れなかっただろうなと

思います。AC入試は正直受かると思っていなかったもので、合格発表のその日まで必死で受験勉強をしていました。合格後も入学してから遅れをとりたくなかったので、そのまま勉強を続けていました。

丸暗記が尋常じゃないほど苦手だったので、英単語は接頭語・接尾語・語幹を覚えて論理的に捉え、構造で単語の意味を推察するところから始めてじわじわ語彙数を増やす、というやり方をしていました。日本史は史実をしっかり踏まえた歴史小説を読んで、ざっくりとした流れを頭に入れてからそれに少しずつ枝葉をつけていくイメージで細かい用語を覚えていました。

【試験対策】

AC入試は自己推薦書と志望理由書を重視した1次の書類選考と30分間の1対3の面接による2次選考の2段階選抜です。合否を決める最大のポイントは、アドミッションポリシーへの理解度だと思います。何度もサイトや募集要項を読んでください。そしていっぱい考えてください。その上で自分がこのアドミッションポリシーに合致している!と思ったら挑戦しましょう。学校とか塾で対策をとってもらうのはほぼ不可能と考えた方がいいです。たぶんそれをするとAO入試対策として扱われるので、書類の内容が求められている方向性とずれてしまって合格は遠のきます。私は一応完成したものを両親と高校の担任と塾の担任と司書の先生に読んでもらって、論理や日本語がおかしいところと誤植だけ探してもらいました。

自己推薦書はとても悩むと思います。A4サイズであること以外に何も規定はありませんが、た

ぶんこれで合否がほとんど決まります。周りに話を聞いてみると、知識のACの傾向としては論文形式かつ分量は少なくとも1万字以上、というのが一般的でした。今までにやってきた何らかの活動を客観的に分析したり、独自の問題意識や研究テーマについて研究論文のような形で論じることで、自身の問題発見・解決能力と志望動機を示す人が多いようです。しかし本来A4サイズであること以外に何の規定もないんですから、もっと面白い、斬新な形であなたをアピール出来ればそれが一番です。大学のアドミッションセンターのサイト上に過去の合格者のレポートが掲載されているのでぜひ読んでみて下さい。参考になると思います。私は掲載されているものは古いものもすべて読みました。あ、募集要項は2部貰うことをおすすめます。

【一言】

AC入試は「筑波のこの学類に入りたい!」という強い信念とその明確な理由を持つ人なら誰にでもチャンスを与える、そんな入試です。出願は9月!頑張ってください、応援しています。

◆知識情報・図書館学類

推薦入試

知識情報・図書館学類 松田 かのん

【受験のきっかけ】

私がこの学類を受験したのは、司書になりたいと思った、というまさに型通りの理由からです。司書資格を取得できる大学が多くある中で、なぜ知識情報・図書館学類にしたのか？それは、「図書館」だけではなく「知識情報」についても学べるからです。本を読むこともパソコンをさわることも好きな私にとって、これほどピッタリな学びの場は他にない！！というわけで、知識情報・図書館学類一筋で突っ走ってきたわけです。

.....

【高校時代の過ごし方】

普通にまじめっぽい高校生活を送っていました。授業にも積極的な姿勢で臨み、宿題もちゃんと出し、テスト勉強もしっかりやっていたので、「学校の成績は」とても良かったです。ただし宿題とテスト対策以外の勉強は全くと言っていいほどやらなかったもので、模試などの成績は散々でした。そんな私の高校時代をちょっとだけ紹介しましょう。

■ 1年生

入学当初から司書になりたいと思っていたので、知識を第一志望にしていました。そして実は最初からAC入試か推薦入試を狙っていました。

もともと人前に出ることが好きでしたし、入試の材料づくりもしたい、ということで英語の弁論大会に出たり、生徒会にも入ったりしました。吹奏楽部にも所属していました。

■ 2年生

文系クラスに入りました。知識は文理どちらからでも受けられます。ただ、情報系の学類ですから理系から進んだ方が後々良いだろうとは自分でも思っていましたし、先生もそうアドバイスしてくださいました。それでも理数科目からどうしても逃げたくてしょうがなかったので、文系を選択しました（結局大学に入ってから数学に苦しめられることになったんですけどね…）。夏休みに筑波大学のオープンキャンパスに参加しました。

早く大学生になりたいな、という気持ちを膨らませながらもやっぱり勉強以外の活動を頑張っていました。

■ 3年生

周りが進路選択に悩み頭を抱え始める中、知識一筋だった私は特に進路の悩みなどもなく、ひたすら部活や生徒会に明け暮れていました。吹奏楽部は大会の関係で他の部よりも引退が遅く、夏休み半ばまで部活をやっていました。夏休み後半にそろそろ入試の準備をしなくてはと思い、県内の図書館巡りをしてAC入試の資料を作りました。この頃も、とっくに代替わりしたはずなのになぜかまだ生徒会活動をやっていました。9月、AC入試の不合格通知が届き、目標が推薦入試に絞られました。受験と平行してやれるのかという先生の心配を押し切って、また英語弁論大会に参加を希望したので、その練習と入試の準備で夜遅くまで学校に残り職員室に通っていました。

【試験対策】

知識情報・図書館学類の推薦入試は、小論文と個別面接によって評価を行います。

■小論文対策

日本語文と英文の2種類の問題で、どちらも日本語で解答します。

まず日本語文ですが、私は過去の推薦入試と文の長さや問いが似ている問題を用意して、国語の先生に添削してもらっていました。小論文の書き方については解説書がたくさん出ているのでここには書きませんが、とにかくめげずに何度も解き続けることが大切です。最初の頃は一つの小論文を完全に仕上げるまで3、4回提出し直すほど低レベルだった私でも、入試までにはなんとか普通の小論文が書けるようになりました。

次に英文ですが、長文読解の力が必要です。私はまず長文対策用の問題集を一冊使い、毎日全文訳をして英語の先生に添削してもらいました。毎日読むことで、少しずつ英文に慣れてきます。設問はさほど難しくなく、高校までで習わない単語には訳がついてあるのでとにかく文章が読めれば大丈夫だと思います。

上達の速度は人それぞれなので、早めに取りかかることをおすすめします。私は9月後半くらいからのスタートだったので、特に小論文は間に合うか間に合わないかギリギリ、という感じになってしまい精神的に苦しかったです。

■面接対策

だいたい15分程度の面接ですが、私はかなりあっという間に感じました。人によって質問はバラバラですが、だいたい調査書や志望動機に関することが主のようです。

具体的な対策として、面接ノートづくりをしました。ノートに思いつく限りの質問とその答えを書いていただけなのですが、この答えを書く作業で重要なのは「覚えるため」ではなく「考えを言葉にするため」に行うということです。面接で嘘をついたり見栄を張ったりする必要はありません。普段から考えていることを正直に伝えればいいのです。あまりにもおかしい答えでなければ、たとえどしくても面接官の先生は優しく聞いてくれると思います。

.....

【一言】

大学はたくさんの個性的な仲間と出会える場所です。受験勉強は大変ですが、そこを乗り越えれば楽しい大学生活が待っています。みなさんの入学を楽しみに待っています！

◆情報メディア創成学類

前期入試

情報メディア創成学類 若狭健太

【受験のきっかけ】

私がこの情報メディア創成学類を受験したいと思い始めたきっかけは、兄の紹介でした。私が中学二年生のとき、兄は受験校を決めようと大学を調べている時期で、比較的趣味が似ている兄弟であったので、この学部面白そうじゃない？ という風に話を持ち掛けられ、同意したのが始まりです。今思い返してみれば、それ以来第一志望が変わることはありませんでした

.....

【高校時代の過ごし方】

高校入学前から志望校をガチガチに固めていた私が入学直後に猛勉強を始めたかということ、その通りで、一年生の頃はかなり勉強しました。と言っても、柔道部と文芸部を掛け持ちしていましたが、体育祭や文化祭などの行事も思いっきり楽しんでいたので、勉強量としては普通かもしれません。意識だけは高かったと思います。二年生になると高校生活にも慣れ、勉強もだれてきました。一番成績が悪かった時期でもありますね。それと、生徒会活動も始めました。三年生になって、よし

勉強頑張るぞ、となったのですが、生徒会長と部活のインターハイ予選、部誌の製本などに明け暮れる多忙な一学期、そして夏休みを過ごしました。そして文化祭が終わり、9月になって、生徒会も部活も引退すると、そこからはもう勉強しかしませんでした。絶対にメ創に入りたかったですし、生徒会を言い訳にするのが嫌だったからだと思います。正月も返上で勉強し、見事合格いたしました。私の高校生活はハッピーエンドを迎えられたわけです。

.....

【試験対策】

成功例の一つとして、私が行った勉強方法をすべて開示しようと思います。勉強方法には相性がありますから、まだ自分なりの勉強法を確立できていない方や、成績が伸び悩んでいる方が一度試すくらいで丁度いいと思います。あと僕は記憶力がいいとか、天才的な頭脳がある人間ではありません。どちらかというとも馬鹿な気がしますので、そういう点を含めてご覧ください。センター対策は学校でも教えてくれると思うので、筑波の数学と英語についてお話しします。

させただけで六割は優に超えるでしょう。それくらい誘導がしっかりされており、じっくり考えれば分かる良問揃いです。と、赤本をやっている段階なら言えたのですが、私の代は急に難化しました。私は156/400点しか取れていません。これは4割も取れていないことになります。ここで言いたいことは難しい問題が出て、どうせみんな解けないということです。受験のときはどうか冷静になって解ける問題を確実に解きましょう。私は途中で考えることを止めました。ですが最後の3分で書いた3行が合否を分けたと思います。

まず数学から話します。筑波大学の数学は簡単です。一通り教科書を理解して、章末問題がスラスラ解けて、受験基礎レベルの問題集を一冊完成

勉強方法としては、教科書での学習を終えた後、典型受験問題の丸写しをお勧めします。良問を集

めた問題集を買きましょう。ここで言う良問とは、出題者の意図がはっきり掴めて、受験者にどのような知識や発想を要求しているのかが明確にわかる問題という意味です。そのような問題をひたすら丸写しし、解答を丸暗記、最後には自分の力だけで答えが導き出せるようになれば、受験数学の大体の問題は解けるようになっていると思います。一見難しそうな問題も、知っている解法を組み合わせることで解けるものです。同じ問題に1時間悩む経験も必要ですが、毎回それをやるのは時間の無駄です。答えをどんどん見ましょう。

英語はただひたすらに音読あるのみだと思います。文構造と訳をすべて理解した長文(短くてもよい)を30分くらいかけて繰り返し音読してみましょう。英語が体に染み込めます。

毎日英文を変え、半年くらい続けると劇的に成

長します。だまされたと思って毎日欠かさず音読をやってみてください。これは本当にお勧めです。筑波大学の英語は他の国立大に比べ長い文がでる傾向にあります。ですが試験時間はそれなりにあるので、読み飛ばさずじっくり読んでも時間は足りるはず。また文章自体も複雑な構文などはあまり見られません。問題も記号形式が多く、記述式の問題も英文の該当箇所が非常に分かりやすいです。正確な訳ができて、大意も掴めるなら恐れるものはないでしょう。英作文は私の代から自由英作文に形式が変わりました。英作文の形式は毎年異なるので、標準的な文をスラスラ書けるようにしておきましょう。

単語帳は「100式英単語」を勧めます。この本は素晴らしいので是非一度手にとってみてください。

.....

【一言】

勉強大好き！ て人じゃない限り大学受験はとても辛いものだと思います。私はとても辛かったです。やりたいことをしっかりと大学に見出している人ほど辛いと思います。やりたいことをやるために、やりたくない勉強をしなければいけないのですからジレンマですね。しかし、そんな辛い思いをしてまで入る価値があるのが大学です。あなたの思い描く大学生活はあなたの行動次第でどれだけでも叶います。似たような志を持った仲間と学べる日々は素晴らしいです。どうか辛い受験を乗り越えてください。

合格したら春日で私と握手！！

.....

【使用した参考書】

- 「合格! 数学実力 UP! 問題集」系 (名前が胡散臭いが解答は実に分かりやすい)
 - 「100式英単語」(絶対忘れない英単語帳、ただし相当の根気が必要。掲載語が試験に出まくる)
 - 「Vintage」(この手の本はなんでもいいと思います)
 - 「レベル別問題集 文法&長文」(東進から出ています。安河内先生の本には助けられた)
 - 「速読英単語」(音読用に。CDを使えば音読がはかどる！！)
- 質問、相談は Twitter へ @konnbuuu

◆情報メディア創成学類

後期入試

情報メディア創成学類 澁川幸加

【受験のきっかけ】

私は高校1年生の頃、志望校を決定するために大学を探していたところメ創を知りました。まず学類の名前のインパクトやカリキュラムに興味を惹かれ、その夏OCに行きました。そのとき「あ、私ここ通うわ」って思うほどの運命的なナニカを感じました（笑）そのナニカは筑波大学の雰囲気そのものが私好きなこと、そしてOCで講演をしてくださった徳永先生のお話がとても面白く、こんな面白い先生がいる学類にぜひ行きたい！！と思ったことだと分析しています。その後も何度かOCへ足を運び、興味のある研究室が増えたり、自発的な先輩が多いメ創に惹かれ、なにがなんでもここに入りたい！！と強く思い受験しました。

.....

【高校時代の過ごし方】

突然ですが私は浪人して合格したので、浪人時代を通して思うことを書きますね。

浪人時代はとにかく基礎をしっかりと意識して、予習・授業・復習のサイクルを大切に、模試の復習は徹底しました。（行く気もないのに）東北大模試を受けたことがあるのですが、そこで英語の小論文の練習ができたので、今年の二次試験に突然出た80語の英作文も安心してできました（笑）。他大学対策模試は1度でもいいので受けてみることをおすすめしますよ！

あと机の端に大きめの付箋を貼っておいて、授業中にここ怪しいな、あとでやりたいな、と思ったことを箇条書きにして復習のタスクにしました。授業の後にはそのタスクリストをみて優先順位と大体な時間配分を考えて取り組みました。

.....

【試験対策】

色んなところで合格体験談を聞くと、思います。でも私が現役生のとき一番知りたかったのは具体的な成績の数字でした。どうせこれ書いてる人も名門校出身なんじゃろ〜〜と思っていたので、なので私は去年の成績を晒します（次ページグラフ）！伸び悩む受験生及び浪人生の参考に少しでもなれたらいいなあとと思っています。

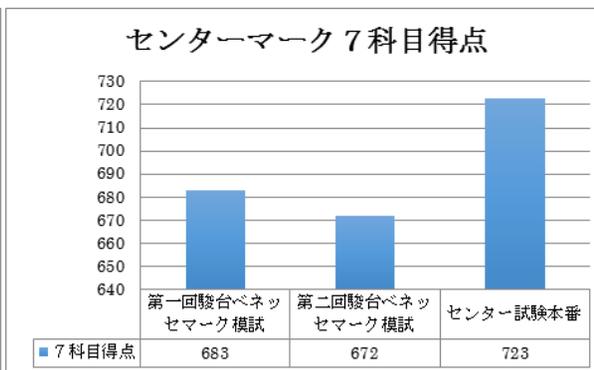
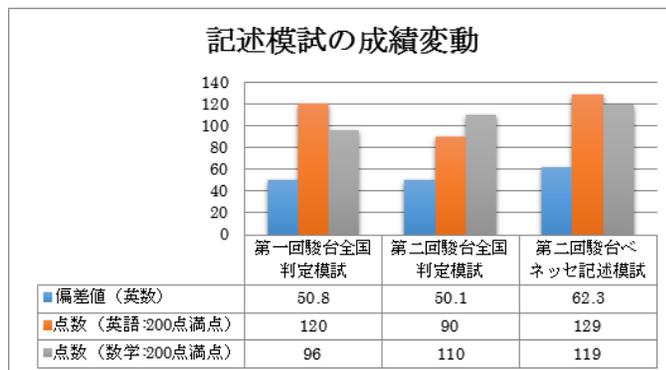
そうするとまんべんなく複数教科の復習ができますし、毎日続けると自分の苦手分野が客観的に見れるのでオススメです。友だちはそのタスクリストを毎日捨てていたのですが私はダイアリーを買ってぺたぺた貼って努力の痕跡として残してました〜。元気がないときにそれを見ると自分を励ます材料にもなりますしね（笑）。

また、受験期の友人の存在は大きかったです。受験生同士なので、辛さもわかる分一緒にがんばろうってやる気にもなるし。でも時間の区切りができないのはお互いにとってマイナスになってしまうので、お互いが高めあえるような交友関係を築いてくださいね！（私は現役時代友だちと話すぎたので浪人時代は同じことになるのを危惧して友だちは少ししか作りませんでした（笑）。

.....

同じ模試でなかったりして一概に比較はできないのですが参考までに。この成績からもわかるように私はあまり成績がよくはありませんでしたが、悪いなりにやっていたことを書きます。

英語は動詞や中学で習うような重要単語（that,so,as等）だけは紙辞書を使っていました。そして活用と例文を読み、SVOCやSVOOなどの



特殊系は何度も引いて染み込ませました。あと単語帳が嫌いだったので、出会った単語をメモ帳になるべく簡素に書いてスキマ時間に見ていました。凝り過ぎると続かないと指摘されたのでこれは自分に合ったかと思っています。数学はひとつの問題にじっくりと取り組み、教科書のどの部分に帰着するのか、を深く考えました。あと大手予備校の授業は夏季・冬季講習だけでもいいのでぜひ受講していただきたいです。深い話を聞けたり刺激を受けるのでオススメです。また、『微積分基礎の極意』（東京出版）等を読むと問題のバックグラウンドがわかるのでおすすめです。二次試験に目を奪われがちですが、まずはセンターです。センターをしっかり取りましょう。私は本番で化学、理科総合 A（笑）の2つとも九割以上とれたのでだいぶ楽でした。過去問に早いうちに取り組み、苦手な分野を詰めて何度も解くことが大切だと思います。直前期は全教科まんべんなく触れるようにしてました。

さて後期の話に移ろうと思います。正直後期対策は勉強効率が悪いので、前期に落ちてから大丈夫です（夏の時点で伝えたいことは後期の心配をするならセンター対策しろ、ということです笑）。後期対策としては赤本をやるのはもちろんですが、私は英文対策として洋書を読みました。もし洋書を読むなら大きな本屋で Linear algebra（線形代数）や、Graph（グラフ理論）などが見出しになったものを選ぶと試験範囲に合うと思います。また、『基礎からわかる 数・数式と図形の英語』（著・銀林浩）と一緒に使って復習すると数学の専門用語がわかるのでオススメです。次に要約対策としては、新聞や現代文の模試などを要約して先生に添削してもらいましょう。字数から考えると文中で個性を主張することは厳しいので、無難に述べるべき点を抑えることを意識して私はやっていました。時間内に完答するのは厳しいと思うので、取れるところを取ろうという意識が大切です。この時期はめげながらも気合だ！！と言いつつ聞きながら取り組みました（笑）。

【一言】

私はメ創一筋でしたが3年間ずっとE判定、そして惨敗。友だちもほぼ作らないストイックな環境で浪人し、センター本番で初めてのA判定をとるも前期に落ち、とても精神的につらい時期がありました。しかし頑張る源は「入りたい！！」という強い気持ちです。強い気持ちをもって諦めないで自分のできる最大のパフォーマンスをするのが受験で一番大切なことだと思います。（正直結果は二の次、です）。自分がいかに本気になれるか、そこが大切です。なので読者の中にはE判定や浪人の人もいるかもしれませんが、お願いなので諦めないでください。つらかったら筑波に来て私に会いましょう！（笑）。来年の春、これを読んだよ！というあなたと会えることを楽しみにしています。

◆情報メディア創成学類

AC 入試

情報メディア創成学類 植木 華織

【受験のきっかけ】

私は高校の先生に「AC入試で筑波を受けないか」と高校2年の3月ごろに言われ始めました。その頃は先生の冗談だと思っていて、本気で筑波を受験するとは考えていませんでした。

しかし、私が気付かない内に進路関係の根回しが終わっていて、外堀を埋められていました。なので「いくしかないか」と達観した気持ちで3年の夏、大学説明会に行きました。結局、大学説明会で洗脳されました。面白そう、と単純にそう思いました。それと、単純にメリットを考えれば、私は第5期生になるわけで、1期、2期生が就職して実績を上げた後に卒業するので、就職しやすいのではないかと考えたのもあります。

.....

【高校時代の過ごし方】

私は工業高校出身です。元々大学には行きたいと考えて大学の推薦入試の一つである「工業高校推薦枠」というものに目をつけて工業高校に進みました。

工業高校に入ってから、マイコンカーロボットを作る部活に入りました。動機不純な考え方で入ったので、初めは無気力で「なんでここにいるんだろう」と思っていました。しかし、様々な工業系の大会に参加するにつれて、だんだんと工業が楽しくなってきました。そこで大学に行くためにここに来たことを思い出して、大学に行けばもっと楽しいことが出来ると思い、高校時代は課外活動を中心に力を入れていました。2年の終わりには、3年で通年行う課題研究をやり始めました。この課題研究は結局、筑波大学のACレポート作りと重なりました。で、私はその工業系の活動が楽しかったので課題研究を優先していました。課題研究の内容製作が一段落したのがお盆で、その時期からACレポートを本格的に書き始めました。

自分の高校時代に課外活動としてやったことは、主に工業高校で行うことの延長線上にありました。一つは、車体・電子回路組立・プログラミングを一貫して行うことが出来るロボット製作をしていました。ロボットは、マイコンカーという

走る速さを競うロボットで、3年間その関係の大会に出場していました。他に、ものづくりコンテストやパソコン甲子園のポスター応募や、パソコン甲子園デジタルコンテンツ部門というものに参加しました。パソコン甲子園では、モバイル部門と協力して行いました。デジタルコンテンツ部門で製作した内容を再現する形で、モバイル部門の作品制作を行いました。デジタルコンテンツ部門では動画を、モバイル部門ではAndroid端末を使ったロボット制御システムの製作をしました。また、Rubyプログラミングコンテストというものにも参加し、ゲーム制作をしていました。以上のことを、学内最終課題研究発表会や、県内の研究発表会等で発表しました。

私は幅広い内容をやっていたと思います。上記の活動をするために、もしくはその周辺知識を補完した程度で、深くやった訳ではなく触れた程度です。大会などに出場したり発表したりして、モチベーションを上げて、締め切りを作り活動していました。

他には、委員長の活動や、グループで参加した大会の責任者等の、人の前に立つ仕事など、リーダーの様な役割をしていました。

【試験対策】

ACレポートはお盆から書き始めましたが、遅い人だと9月に入るか入らないかのときに書き始めた人もいます。私の書き始めた時期も本来なら遅くて、基本的には夏休みに入る前ぐらいから構成を練った方が良さそうです。書いたレポートは先輩のAC合格者に見てもらおうとよいです。私も見てもらったのですが、これによって自分の活動で書き足りない部分や、いらぬ部分がありました。私は30枚強を書きました。添付資料を足すと、50枚前後だった気がします。これは平均的な枚数でした。多い人は70枚以上とかもあるらしいですし、少ない人は2・3枚ということもあるようです。レポートは、なぜその考えに至ったか、など論理的な考え方で書きました。AC入試の募集要項を読む事や入学説明会の話聞くことで分かったアドミッションポリシーを念頭に置いて書きました。

2次試験対策としては、自分のレポートを何度も読み返しました。面接のときにレポートと矛盾したことを言わないようにしなければならぬので、レポートの内容は頭に入れました。後は、面接官を前にすると緊張して何も言えなくなると思ったので、面接練習はかなりしました。1次合格通知が来てから2次試験までの1週間、毎日3時間以上はホワイトボードの前で自分のレポート内容を簡単に説明出来るようにして、毎日高校の先生に面接練習をしてもらっていました。最大で1日5回面接練習をしていました。しかし、ここまで面接練習をしていた人は少ないようです。私の周りのAC生だけかもしれませんが、アドリブでなんとか言ったと言う人もいました。面接は自分に合った方法を使って練習すれば大丈夫だと思います。

.....

【一言】

やりたいことを明確にすれば、受験は勝ったも同然です。がんばってください。さすればそなたもこちら側の人間になるじゃろう。

◆情報メディア創成学類

推薦入試

情報メディア創成学類 渡辺 百合香

【受験のきっかけ】

私は高3の夏までぼんやりとした志望校すら決まっていませんでした。実は看護師になりたいと思っていたのですが、周りの人から似合わないと言われ続けて心が折れ断念。医療系に進みたかった私は薬学部に進もうとしましたが学力が全く足りずすぐに断念。バリバリ医療系に進む気だった私は理科の選択科目で生物を取っていたため物理に触れたことすらなく、理系の学部に進むにはとても選択肢が狭くなってしまいました。唯一パソコン関係のみは趣味として触れていたの(プログラミングなどは微塵もしたことはありませんが)、情報系に進むことを決意。担任から挙げられた大学の中で場所と知名度、それに去年同じ高校の先輩が一人(学群は違いますが)入学していたことから筑波大学を選びました。

目指す学群を情報学群で絞り、その中で私は情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類で迷いました。メ創はなにをやっているのか詳しくはわからず、新しい学類でまだ院生から就職生が出ていない段階で、元からひいてあるレーンの上を通らなくていいのだと考えるととても魅力的だったので見事情報メディア創成が第一希望になりました。

.....

【高校時代の過ごし方】

■ 1年生

高校も推薦入試で合格し、徒歩2、30分の私立高校に通っていました。選んだ理由は近いことと、評定が良かったので推薦で入ると授業料全額免除であること、友だちがいることでした。私立高校だったのでとにかく入ってからが大変で、週4日7時間授業+講習で学校が終わるのが18時と、部活にも入れず毎日課題に追われ「学校→課題→寝る」の1日を繰り返す日々を送っていました。

■ 2年生

進級してもやはり課題に追われる日々でした。国公立の大学を目標としているコースだったのでひたすら志望校について話し合うも決まらず、とりあえず担任が勧めてきた筑波大学の情報メディア創成学類を志望校にするも課題を処分することに必死で学力も上がらずE判定からも上がらず…。毎日課題に追われ学校を本気でやめたくなくなった高2の冬もありました。あのときは結構本気でしたね。

■ 3年生

3年生になっても課題に追われる日々が続きました。そして夏休みの三者面談でやっとメ創の推薦を受けることに決まりました！その後担任の気まぐれもあり同好会を作るメンバーの一員になり、ついに科学同好会を作りました。そこでは可能なことであればなんでも実験ができたので、アルコールランプを使った簡単なエンジンを作ったり、中和滴定をしたり、豚の目の解剖をしたり…とにかく好きなことをしました。科学同好会のメンバーで高校の学校説明会のお手伝いをして、中学生と一緒に実験をしたりもしました。普段の高校生活に関してはこのころが一番いきいきしていましたね。その後受験期に突入していきます。

【試験対策】

メ創の推薦入試は小論文とは名ばかりの英語の学科試験と、普通の小論文、それと面接があります。小論文は数学や数学的ゲームなどが英語で書いてあり、それを読み取る問題と、普通の要約や、本文の内容からの発展問題的なものもありました。それと面接には口頭試問が含まれています。

■面接

大体皆ぴったり 15 分でした。メ創は珍しく志望理由書を提出する必要がなく面接で詳しいことを聞かれるので、話の内容と全く関係のない質問は一切聞いてきません。その分質問内容を無駄に多く考える必要がないので、自分がやりたい研究内容を調べることに時間を割くことができます。主に志望理由や大学でやりたいことを聞かれるのだらうと思ったので、面接練習は礼儀の練習を軽くした程度で、質疑応答の練習などはほとんどしませんでした。決まりきったことを暗記して言うのではなく、心から思ったことを印象に残るように伝えるのが一番だと思います。

それと、途中で数学の口頭試問があります。私の時は 3 問問題があり、その中から一つを選んで黒板を使って説明せよ。という感じでした。やはり人前で問題の解説をすることは滅多にないので、焦ってしまいがちですが、わからなくても無言にはならず、積極的にコミュニケーションをとっていきましょう。個人的には問題を正確に解くことよりもコミュニケーションをとりながら解いていくことが評価につながるのではないかなと思っています。あくまで個人的意見ですが。ですから、対策方法はひたすら人に数学の問題を教える練習をすることだと思います。

.....

【一言】

受験勉強は、その言葉を聞くことですらつらいものですが、それを乗り越えた今、私は人生で一番楽しい生活を送っています。大学にはいろんな地方から人が来るので、毎日が新鮮ですよ。判定なんて頑張り次第でいくらでもひっくり返せます。推薦で受ければ冬休みが創成されますよ！！受かってドヤ顔、…したいですよ。

■小論文

まずは推薦の赤本で、過去問 3 年分を徹底してやりました。国語の方はやってみると運良く添削で問題ないと言われたのであまり対策をしませんでしたが、英語の方は本当のことを言ってしまうと大の苦手で、偏差値 40 台からのスタートでした。しかし毎日英語の長文を一つは読み、英語の先生に添削してもらい、数学の先生からは数学の専門用語の英和辞典を借り、1 か月間で英語の学力の快進撃を繰り広げました。これは奇跡としか言いようがないですね。まぐれです。もっと早くから英文に触れましょう。

5. 生活体験記

「春日民ってどんな生活しているの？」

全然想像がつかないのではないのでしょうか。入学前はそんなものです。春日での住居形態には以下の三つがあります。

- ・学生宿舎
- ・アパート
- ・自宅通い（宅通）

そう聞いて、またこんな疑問も生まれるのではないのでしょうか。

「宿舎ってどんなところ？」

「アパートってどう選べば…」

「宅通って一日をどう過ごしてるのかな」

実際の春日民がどのように生活しているのか、みなさん気になるころでしょう。

ここからは、宿舎（追越・平砂地区、春日地区）、アパート、宅通のそれぞれで生活している1年次の人にその様子を書いていただきました。メリットやデメリット、一日の過ごし方などについて書かれています。普段春日民がどのような生活を送っているのかを知り、あなたが春日民になったときのかすがらいふ構想をどんどん膨らませてください。

学生宿舎

知識情報・図書館学類 榎本 祐季

春日宿舎の設備紹介

知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の学生は基本的に春日エリアにある春日宿舎に部屋を割り当てられます。

春日宿舎には最初から机・椅子・ベッドが備え付けられています。ほかの宿舎とは異なり、部屋に洗面台は設置されていません。また、玄関で靴を脱ぐため、スリッパが必要になります。共用棟と呼ばれる男女共用のスペースも春日宿舎にはありません。

しかし、春日宿舎は改修を終えたばかりでとてもきれいです。女子棟は昨年、男子棟は今年から使用が始まりました。お風呂もほかの宿舎とは異なり、それぞれの棟内に設置されているうえ、共益費に湯費が含まれているため、入浴のたびにお金を払う必要はありません。また、10分100円で使用することができるシャワールームが3部

屋設置されています。お風呂は17:00～22:00の間にしか入れませんが、シャワールームは24時間使用可能です。これはどの宿舎にも共通ですが、補食室という共同の台所があります。補食室は各階にあり、基本的に宿舎に住む人はここで調理をすることになります。また、補食室にはコインランドリーが2つと乾燥機がそれぞれ1つ設置されています。1回100円から使用することができます。洗濯にはここを使いましょう。

春日宿舎の女子棟には2階に、男子棟には1階に談話室という広い部屋があり、大勢で集まることができます。僕たちはDVDの鑑賞会などに利用しています。

宿舎内にはLANが通っており、ケーブルでパソコンと回線をつなげば自由にインターネットに接続することができます。接続の際には大学側から配布されるIDとパスワードが必要になります。

メリットとデメリット

メリットは、友だちと一緒に暮らせることです。夜遅くまでワイワイ遊ぶことも簡単ですし、一緒にご飯を作って食べたり、一緒に課題をやったりもできます。また、朝が弱い人は友だちに頼んで起こしてもらいましょう。僕は友だちの間では目覚ましとして重宝されています。部屋が近い人と仲良くなると頼みやすいかもしれませんね。

デメリットは自由に過ごすのが難しいことです。トイレに行くためには部屋を出なければなりませんし、部屋で調理をしても、洗い物のために結局補食室に行かなくてはなりません。機嫌が悪くて誰にも会いたくないというときは少し苦しいかもしれません。

1日の過ごし方

-- 平日 --

- 6:30 起床。
しっかり目が覚めるまでごろごろ。
- 7:00 Twitter などを用いて友だちが
起きているかを確認、寝ていたら起こす。
- 7:30 かすがらいふの編集長にモーニングコール
(ほぼ日課)。
- 8:20 1限目が本学*である日は出発
(しないと間に合わない)。
- 8:35 1限目が春日エリアである日は出発 (しな
いと間に合わない)。
- 8:40 1限目の授業開始
- 11:25 お昼休み。友だちとご飯を食べる。
本学で授業のある日はパンを購入。春日で
授業のある日は食堂へ or パン・カップラー
メンを購入。
朝時間があればお弁当 (おにぎり) を作っ
ていることも。
- 12:15 午後の授業スタート
- 18:00 授業終了。日によってまちまち。
↓
- 0:00 遊んだり、ご飯食べたり、家事したり、た
まに課題でこんな時間。
- 0:30 僕の課題はこれからだ!
- 2:00 寝落ち。もしくはやりきった満足げな表情
での就寝。おやすみなさい。

-- 休日 --

- 8:30 起床。
授業がない喜びに震えながらごろごろ。
- 12:00 そろそろ動かなければ人として何かがまず
いという観念に突き動かされる。
↓
- 22:00 充実した (実りのない) 1日を送ってやっ
たぜ…。あ、課題が… (白目)
- 0:00 結局それとなく終わらせた課題を横目に迫
り来る月曜日を恨みながらベッドへ。
- 2:00 なんだかんだとこの辺まで起きている。
朝起きられるのかという不安と闘いながら
就寝。

僕は課題をぎりぎり
までやらない (期限までに仕上げ
ればいいんです) タイプの人間なのでこ
んな感じの生活を送っています (笑)。
また僕は比較的朝に強いので、友だちの
目覚まし係を請け負っています。宿舎暮ら
しじゃない人も電話をかけて起こしま
す。朝は僕の評価が著しく上昇す
る時間帯なのです!

※本学…第一～三エリアの通称。用語集参照。

どうですか? 皆さんもここで生活してみたいと思いませんか?

宿舎生活はかなり楽しいです。引きこもりがちな僕ですが毎日が充実していると自信をもって言えます!。皆様が春日民になることをこころよりお待ちしております (・∀・) /)

ほとんどすべての大学生が経験するアパート、マンションでの一人暮らし。つくば周辺の家賃は、安いところで3万円前後から、高いところでは6万円ほどで借りられます。ここでは、宿舎や自宅通学（宅通）とは一味違うアパート・マンションでの一人暮らしについて紹介していこうかと思います。

設備紹介

宿舎・宅通の子たちと大きく環境が変わるのは物件に備え付けのバス（風呂）、トイレなどです。物件によってはバス・トイレ別であったりバス・トイレ一緒だったりします。また、バス・トイレ別であってもバスと洗面所が一緒だった、などという罫もあつたりするので要チェックです。またインターネット完備であったり、エアコン備え付けであったりと環境も様々であるため、物件の下見や一人暮らしをしている先輩などへの質問はとても重要です。もちろん、どんな物件を求めるかは個人の趣味によって変わるために一概にこういう物件がいい、とは言えませんが、いろいろな先輩に積極的に話しかけてみるといいでしょう。

ちなみに、私が住んでいるのは春日4丁目にある物件で、8畳とDK4,5畳の1DKで家賃、水道代、電気代、ガス代で月々大体6万円かかります。春日キャンパスまでは自転車で約10分、本学キャンパスまでは15分といったところにあるので本学などで活動するサークルに入りたい人にはお勧めだったりもします。

メリット・デメリット

アパート・マンションにおける一人暮らしのメリット、デメリットを紹介していこうと思います。これを参考にして自分が1年生からアパート・マンションで暮らすかどうかを決めるのも一つの手です。

メリット

- ・部屋で勉強会、パーティなどを開ける
- ・好きなときにお風呂に入ることができる
- ・一人で考えごとをしやすい
- ・他人の目を気にしなくてもよい
- ・自炊をしやすい
- ・宿舎と比べて広い
- ・サークルの会議場所にできる

デメリット

- ・いろんな人のたまり場になりやすい
- ・ふとした瞬間に孤独を感じる
- ・朝寝坊した際に友達が起こしてくれない
- ・掃除が宿舎の人たちよりも大変で疲れる
- ・宿舎の人たちの「あれ、君どこの階に住んでるの?」「～～階のメンバーが・・・」などの宿舎についての会話についていけない
- ・夜中に課題が終わってないことを思い出したときにすぐに友だちに聞けない

一日の過ごし方

アパート・マンションでの一人暮らしで一番重要となるのは朝の過ごし方です！これだけで一日の過ごし方が根本的に変わってしまいます。ここでは私の平日、休日それぞれの過ごし方を紹介させていただきます。

-- 平日 --	-- 休日 --
7:00 起床、洗濯、身支度、ご飯等	8:00 起床、身支度、ご飯等
8:40 講義	9:00 サークル
17:30 サークル(サークルがない日は課題などをやる!)	14:00 友人・サークルの仲間などと遊んだり、課題をやったり食事したり
20:30 夕食・洗濯物の片づけ、お風呂等	20:00 ゲームをしたり本を読む
22:30 授業の復習、課題など	23:00 就寝
24:00 就寝(課題が終わってなければ寝る時間はどんどん遅くなっていきます)	



洗濯物・部屋の掃除を朝に済ませてしまうと時間的な余裕がたっぷり持てるので、洗濯物や部屋の掃除は朝のうちにしてしまうといいかと。課題などは一度にやろうとすると限界が来るので毎日少しずつでいいから進めていきましょう。

自宅通学

知識情報・図書館学類 前田 華子

筑波大学情報学群に興味を持っている受験生の方々、こんにちは。私は「最強の宅通マン」と呼ばれているものです。

宅通とはどんなものか、ここではそのメリットデメリットを簡単に説明していききたいと思います。

設備紹介

アパート、宿舍と違った宅通の設備とはどんなものか？それはズバリ！あなたの家です！基本的に風呂トイレ完備、自分のプライベートが確立された空間があり、ダイニング、リビングがあり…完璧ですね！さらに、なんとお母さんがついています！人が生きるにあたって最高の設備と言えるでしょう。

メリット

宅通のメリットって何？そんなになんか気がする…。確かにそう思うかもしれませんが。しかし宅通にも隠れた大きなメリットがたくさんあります。それを一つずつ紹介していこうと思います。

- お母さん（保護者）がいる。＝風呂、ご飯、その他生活に関わることをやってもらえる。
- 生活リズムが一定になり、規則正しい生活を送りやすい。
- 起こしてくれる人がいるため遅刻、欠席などが少なくなる。
- 通学することにより行動範囲が広がる。
- 工夫次第で通学時間を活用して様々なことができる。
- 筑波の環境から少し離れることができる。

デメリット

もちろん宅通はいいことばかりではありません。他とは違うデメリットもあります。これを紹介するにあたって私のテンションもやはり少し低くなります…。

- 通学時間が長い。
- 朝が早い。
- 急な誘いに対応できない。
- 夜遅くまで懇親会などに参加することができない。

このようなデメリットがあります。これらは本当につらいです。しかし解決方法がないわけではありません。さて、ではこれらを解決するにはどうしたらよいのでしょうか。

デメリット対策

その1. アパートに住んでいる友だちを作る。

宅通という選択をしてしまった以上、夜遅くなるのは基本的にNGです。しかし！方法として、友だちの家に転がり込む、というのがあります。保護者にきちんとした説明、できるだけ事前許可を取って、遅くなる日は頼んで泊まらせてもらうというのが一つの手です。

その2. 通学時間が長い

＝隙間時間として活用できる。

宅通をしていて一番つらいのは通学時間です。暇だし、長いし、時間の無駄な気がする…。そんな時間を逆手に取りましょう。通学時間に読書をしたりゲームをしたり勉強をしたりすることで活用するのが賢いやり方といえます。朝早いのも、ゲームをするために起きていると思えばあんまり苦じゃなくなったりします。私はモンハンをやりま

一日の過ごし方

-- 平日 (4限まである日)--

- 6:00 起床。少し寝坊。焦る。Twitter にて「むくり (迫真)」
- 6:40 出発。急いでバスに乗る。
- 7:45 2回の乗り換えを終えつくばに到着。ここから自転車で移動。
- 8:10 教室到着。早めについてのんびりする。
- 8:40 授業
- 15:00 授業終了。課題をやったり友だちとお喋りしたり。
- 18:00 そろそろ帰宅し始める。
- 19:30 帰宅。おいしいごはんを食べる。
- 24:00 もろもろ終えて就寝。ぐったりです。

-- 平日 (6限まである日) --

- 6:10 起床。今日は一限が春日キャンパスであるので少しのんびりできる。
- 7:10 出発。月曜よりも30分遅く出発しても大丈夫。
- 8:30 到着。つくばセンターから春日キャンパスが近いのが救い。
- 8:40 授業
- 18:00 授業終了。課題やサークルへ。
- 21:00 やっと帰れる。遅くなるので夕食はつくばでとろう。
- 22:30 帰宅。急いでもう寝たい。
- 25:00 就寝。遅くなってしまった。

-- 休日 --

- 11:30 疲れてるんだい！ やっと起床。
- 14:00 遅めの昼食。テレビが面白い。
- 16:00 課題とかをぼちぼち始める。週明けに提出しなければ単位が…！
- 19:30 ごはんを食べる。宅通でも家族とちゃんと話せる機会は意外と少ない。
- 22:00 時間が溶ける溶ける。あっという間にこんな時間。
- 24:00 何もしてないのに疲れて眠くなる。宅通は体力勝負。

【最後に】

とまあこんな感じで紹介いたしましたが、なぜ私が「最強の宅通マン」と呼ばれているかというと…「宅通なのに帰宅してもごはんもお風呂も用意されておらず週末は基本的に家にひとり」だからです。そうです、基本的に自炊しています。朝も起こしてもらえません。最大のメリットがないようにも思えます。それでも割と宅通は続けられます。つらいことばかりが多くてほかの人からは多苦痛なんていわれますが、そんなに悪いものでもありません。他とは違った大きなメリットもあります。さあ！あなたも宅通仲間になりましょう！

6. サークル

◆どんなサークルがあるの？

筑波大学のサークルは、そのほとんどが

- ・文化系サークル連合会
(<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>)
- ・体育会
(<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>)
- ・芸術系サークル連合会
(<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>)
- ・一般団体
- ・公認学生組織

のいずれかに属しています。

逆にいうと、このいずれかに属していない団体はちょっと活動内容が不透明なところもあるので気をつけましょう（すべてがそうとはいえないかもしれませんが…）。

どんなサークルがあるか、ですが、ちょっとありすぎてここには書ききれません…（´・ω・`）とにかく、なんでもできるのが筑波大学。運動にも芸術にも文学にも福祉にも、なんにでもチャレンジできます！

◆「部」と「サークル」

サークルを探していると、「○○部」というものとそうでないものがあることに気が付きます。

これはあくまでも筆者のイメージなのですが、部のつくものはわりとがちでやっているイメージ。そうでない団体はちょっとゆるめなイメージ。あくまでもイメージ。部がつかなくても結構ハードに活動している団体ももちろんあります。

ちなみに、医学○○部という団体が多く見受けられますが、これは医学群以外の学生も参加できます。新歓が豪華なので一度は行ってみたいかも。

◆学業やバイトとの両立

サークルをやっていたら他のことってできないんじゃないの…? と不安になっている皆さんも大丈夫、両立は可能です。

筆者もサークルもバイトもしていますが、単位は取っています。ただし、サークルには毎日のようにがちがちに活動しているところから、週1日のペースでゆるーく活動しているところまで様々です。バイトも同様。何を優先するのかをしっかり決めて、サークルも選びましょう。

両立できるかできないかは自分次第かもしれません。大学生ですからね。

◆新歓について

春になると、多くのサークルが新入生歓迎会、略して新歓を行います。新入生にとってはタダ飯のチャンス!(笑)4月の食費が恐ろしく安くなる、なんてことが普通に起こります。もちろん、自分の入りたいサークルの雰囲気を知る大事な機会です。ただし、新歓に便乗して怪しい団体から声がかかることもあります。自分の身は自分で守りましょう。

新歓の様子や参加団体は筑波大学新入生歓迎祭のページ

(<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~shinkan/>)

から確認することができます。気になった人はチェックしてみてください。

7. アルバイト

◆バイト時期

この項目を見ているみなさんの大多数はきっと「バイトは大学生活に慣れてから…」と考えているのではないのでしょうか？ はっきり言います。「甘い」です。まだいい、テストが始まるから。サークルの合宿があるから。新学期の授業に慣れてから。とどんどん先延ばしにしてしまった結果何もしない、なんてことになりかねません。また、夏休みに始める人も多いようですが、学生にとって一番の稼ぎ時である長期休暇を研修期間という時給が低い状態で迎えることも損をしているように思えます。

大学生活もバイトをしている、していないによって大きく様相を変えてきます。正直いって、一年の春Cモジュールなんてものは、バイトをしていないと、暇で暇で仕方ありません（やどかり祭期間を除く）。逆に、バイトをしていることで課題提出まで効率的に課題に取り組むことが身に着いたりします（土日にバイトがあるため「土日にまとめてやろう」などと言いつけないので）。

また、大学生活に慣れるように、バイトも慣れてしまえばどうということはありません。むしろ楽しくなってくるときもあります。楽しいことをやってお金をもらえるなんて最高じゃないですか？

◆給料について

いかなる条件でバイトをしているかによって異なりますが、土、日6時間勤務でだいたい2~3万というところが目安となるでしょうか。週5、6勤すれば10万越えも夢ではないです。

しかし、大事なことを忘れないでください。優先すべきはお金ではなく、己の健康や、学業であります。このことを忘れずみなさんも楽しいバイト生活を送ってもらいたいと思います。

(とある先輩の感想です)

◆バイトの種類

・飲食店（キッチン）

汚い（生ゴミ、油汚れ等）、きつい（混雑時）、などいろいろ悪条件が多いです。しかし、まかないを食べることができたりします。時給は800円~900円ぐらいが相場。若干高めです。

・飲食店（ホール）

キッチンと違い接客業なので人とのコミュニケーション能力を求められます。キッチンと比べ汚物処理にかりだされることは少なめです（客と直に接するので）。まかないも食べられます。キッチンより若干時給が低いところが多いです。割と競争率が高く、ホールで希望を出したのにキッチンしかあいておらず入れられるなんてことも。

・家庭教師、塾講師

大学生が行う一般的なバイトの中ではトップクラスの時給を誇ります。しかしその実、報告日誌作成、授業準備等、時給が発生しない業務時間が多かったりするので他の一般的なバイトとたいして差がなくなってしまうこともあります。また営業形式上毎週決まった時間に拘束されるため、急に予定が入ったときなど対応力が低いのがネックです。

・ショップ販売員

時給もそこそこ、服も汚れることはまずないです。まかないがないため働くたびに昼食代がかさむということがデメリットかもしれません。時給も飲食店と遜色ないところが多く割とお勧めのバイトです。

8. 筑波大学の1年間

4月

■ 宿舍入居

宿舍は春日、追越、一の矢の各地区ごとに入居日が決まっています。入居日のイオンには臨時バスが出るほど。

■ 入学式・新入生歓迎祭

各学類やサークルで新歓祭が行われます。色々なイベントに参加すると友だちが増えるよ！

5月

■ 春季スポーツ・デー

春季と秋季の年2回行われる行事。有志参加で、様々な球技やミニゲーム、スポーツ写真コンテスト等も行われます。運営しているのはスポーツ・デー委員会です。

■ やどかり祭

宿舍祭ともいいます。1年生が出店していることが多いお祭りです。これを通して恋の季節がやってくるとか来ないとか。まあ人によりけりですね。

6月

■ 春 AB モジュール期末試験

一年生最初の山場。春 AB モジュールに授業が集中しているののできついです。これを乗り越えれば授業が比較的少ない春 C モジュールに突入します。友だちと協力して生き抜きましょう。

◆ 8月

■ 春 ABC モジュール期末試験

■ 夏季休業

10月

■ 全学停電

安全点検のため、毎年、全学規模で停電があります。もちろん宿舍も真っ暗です。冷蔵庫…orz

11月

■ 学園祭

通称「雙峰祭（そうほうさい）」。3日間にわたって行われる、大規模なお祭り。筑波大の広大なキャンパス中で模擬店などが出店される。お店を出しているのはサークルだったりクラスだったりゼミだったり。運営しているのは筑波大学学園祭実行委員会（通称は実委）の現役生や OB や OG。

■ 秋季スポーツ・デー

春季スポーツ・デーとほぼ同じイベントです。多少種目が変わります。

12月

■ 秋 AB モジュール期末試験

■ 冬季休業

2月

■ 秋 ABC モジュール期末試験

■ 春季休業

3月

■ 卒業式

9. 学費・奨学金・宿舎

平成 25 年度の授業料・奨学金・宿舎費について簡単に説明します。

学費

1 年次納入額

817,800 円

入学金

282,000 円

授業料（第 1 期・第 2 期）

267,900 円

年間授業料合計

535,800 円

1 年次には入学金+授業料で約 80 万前後の納入、2 年次以降は年間約 50 万ずつの納入になります。ちなみに条件が揃えば授業料および入学金の全額、もしくは半額を免除する制度があります。

春日宿舎

寄宿料

8,000 円× 12

共益費

6,840 円× 12

※基本使用料（寄宿料+共益費）

14,840 円× 12

保証金

30,000 円

宿舎ではガス代・水道代は無料ですが、別途電気代は発生します。しかし、いくら電気を酷使しようとも月に 1,000 円を超えることは滅多にないというほど安いです。

奨学金

毎年 4 月中旬に、日本学生支援機構申込説明会が開かれます。そのときに配布される必要資料に必要事項を記入し、学校に提出することで奨学金の申請は終了します。

実は書類配布から締切までの期間はとても短く、その上保護者に記入してもらわなければならない箇所もあるので、奨学金を申請しようと思っている人は早めに奨学金について詳しく調べると良いかと思います。

※詳しくは日本学生支援機構の公式 Web ページ (<http://www.jasso.go.jp/>) をご覧下さい。

10. 筑波大学の施設

全国有数の広大なキャンパスを誇る筑波大学。このキャンパス内には様々な施設が存在しています。このうち、比較的春日民が触れる機会の多い施設について紹介します。

■第三エリア

国際総合学類、工学システム学類、情報科学類などが使用しているエリア。第二外国語の一部はここで授業が行われており、また同じ情報学群に属する情報科学類が主に使用しているため、比較的春日民も訪れることが多いです。

■第一エリア

人文学類、地球学類、数学類などが使用しているエリア。建物が棟ごとに色分けされているので大変鮮やかです。講義が集中している時間帯は辺り一面が自転車で埋め尽くされます。中央図書館の手前があるので春日民も通過することが多いです。

■体育・芸術エリア

体育専門学群、芸術専門学群が主に使用しているエリア。さすが芸術、建物が白くて綺麗です。

■医学エリア

その名の通り医学類、看護学類、医療科学類の使用するエリア。大学病院もこの中にあります。他の学類の学生が中に入るには特別に許可を得る必要があり、謎に包まれたエリアです。

■春日エリア

■一の矢宿舎

第二、第三エリアに通う学生が使うことの多い宿舎です。キャンパス内で最北端に位置するこのエリアは春日から最も離れた施設になりますが、遊びに行ったりするので訪れる機会は意外と多いです。

■第二エリア

日本語・日本文化学類、障害科学類、生物学類などが使用しているエリア。春日民が立ち入ることはそれほど多くありません。大変入り組んでいるので、たまに訪れた春日民が迷子になって発見されることが割とよくあります。

■大学会館

講堂や会議場などが配置された建物です。入学式などの式典や全学規模での説明会はここで行われます。

■追越・平砂宿舎

主に医学エリアや体芸エリア、第一エリアに通う学生が使っている宿舎です。

やどかり祭の開催地ともなります。昨年はまだ春日宿舎が改修中だったため、一部の知識・メ創の学生もここに配置されていました。

11. 春日エリアの施設

■春日宿舍

春日エリアの学生が使っている宿舎。
詳しくは「生活体験記」参照。

■体育館

図情バレー部や図情バスケット部が使用しています。が、はつきりいってしまうと春日民はあんまり利用しないかも。

■講堂

ステージと客席の備えられた中規模ホールです。説明会のときや一部の集中講義ではこの施設を利用しますが、あまり利用頻度は高くありません。

■シンデレラ階段

7B 講義棟のロビーに備えられた階段の通称です。あんまりシンデレラっぽくはない。よく学生の集合場所にも指定されます。

■図書館情報学図書館

「筑波大学附属図書館」のページを参照。

■情報メディアユニオン

春日エリアの中で、多分一番綺麗な建物。大学院の研究室があるほか、様々なメディア関連機材が配置された「クリラボ」なる素敵な部屋があります。知識情報・図書館学類生は二年生、情報メディア創成学類生は一年生のうちからここで講義があります。ここで講演会や発表会が開かれることもあります。

■書籍部

教科書、雑誌や文房具などを販売しています。全て定価の1割引きです。
実は春日の書籍部だけ漫画が置いてあるんです。もちろん1割引きです。

■ラウンジ

食堂のとなりにあるフリースペースです。ちょっとした集会や会議のときはここに集まります。パンやカップラーメンなどの自動販売機が置いてあり、24時間開放されています。学生の強い味方です。

■春日食堂

豚丼やカレー、うどんの他に日替わり定食などがあります。価格は300～500円くらい。
本学の食堂よりは混んでいないと思います。営業時間も他の食堂より短いのでいろんな意味でレアかも！

12. 筑波大学附属図書館

■中央図書館

第一エリアと第二エリアの間にある、筑波大学内で一番大きな図書館です。5階建て。

図書だけでなく雑誌や映像資料も豊富です。スタディスペースもあり、授業と授業の合間に勉強する人も多です。基本図書館にはパソコンもあるので、パソコンを使わなければならないレポートも図書館にこもって仕上げることができます。

ちなみに入り口にスターバックスがあり、お腹をすかせた学生たちをいつも誘惑しています。



■体芸図書館

体芸エリアにある図書館。春日の学生は体育の後にたまに利用したりする人もいます。他の図書館よりデザイン性のある造りをしている（気がする）ので、見学に行く面白と思います。



■医学図書館

医学エリアにある図書館。残念ながら筆者は行ったことがありません。行ったことがある人に聞いたところ、勉強している人が多いので、モチベーションが上がるそう。他の図書館とは開いている時間が違ったりすることがあります。

■図書館情報学図書館（略称 図情図書館）

春日エリア内にある図書館。2階建て。図書館学に関する図書や雑誌を多く所蔵している。小規模だがこもりやすい。ラーニングcommonsというパソコンやスクリーンなどが備えられているスペースがあり、そこではチューターと呼ばれる上級生や大学院生たちがレポートなどの相談に乗ってくれる。春日の誇れるもののひとつだったりする。



■大塚図書館

東京キャンパスにある図書館。学類生のうちあまり利用することはないと思われる。

13. 用語集

あ行

◆天久保 【あまくぼ】

地名。筑波大生が多く生活している。

◆アパ民 【あばみん】

アパートに住んでいる人。

◆1学・2学・3学 【いちがく・にがく・さんがく】

それぞれ第1エリア、第2エリア、第3エリアの通称。学群・学類再編前のナンバー学群の名残。

◆一の矢 【いちのや】

地名。または、一の矢宿舎。春日の人にはあまりなじみがない。団地のように広い。猫が人懐こい。

◆エクストリーム移動 【えくすとリーむいどう】

春日と本学の間を15分（休み時間）で移動すること。遥かなる旅路…

◆追越 【おいこし】

追越宿舎。今年は春日宿舎2号棟が改修のため、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の男子が大勢入居した。

か行

◆学内バス 【がくないばす】

正式名称、学内循環バス。ループ（ら行参照）を走る。筑波大生は年間4,200円で乗り放題。時間通りに来ないことが多い。

◆春日 【かすが】

1. つくば市内の地名。2. 春日エリア（春日キャンパス）（かすキャン）。3. 情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の総称。

◆春日食堂 【春日食堂】

春日エリア内にある食堂。通称かすしょく。味は日進月歩。ぜひお試しあれ。

◆クラ代 【くらだい】

クラス代表者会議。春日地区では、情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類とで合同で春日地区クラス代表者会議として、春日エリア内のあれこれを改善するため、日々活動している。

◆芸専 【げいせん】

芸術専門学群の略称。ここの友だちができるると自慢できる。

◆粉クリ 【こなくり】

体芸エリア・2学・3学に存在するパン屋。美味。朝にはバイキングをやっている。

さ行

◆散歩 【さんぽ】

入学式前に春日から本学の前まで見学をしに行くこと。新入生歓迎委員会の企画である。やるかどうかはその年の委員次第。宅通の人はこのことを知らずに入学してくることが多いので、入学前はweb等で情報を得ておこう。

◆実習室 【じっしゅうしつ】

パソコンが沢山置いてある教室。課題をやったり、娯楽のためにパソコンを使いにくたり、その使用目的はさまざま。

◆宿舎民 【しゅくしゃみん】

宿舎に住んでいる人のこと。詳しくは生活編で！

◆シンデレラ階段 【しんでれらかいだん】

1階と2階とをつなぐ、大きな階段。その形状からシンデレラ階段と名がついた。待ち合わせによく使われる。王子様は…心の中に。

◆全代会 【ぜんたいかい】

全学学類・専門学群代表者会議の略称。通称Z（ぜっと）。生徒会の化け物のようなイメージ（あくまでもイメージ）。この人たちのお陰で筑波大生は充実した生活が送れている（はず）。

◆雙峰祭 【そうほうさい】

11月頃に3日間にわたって行われる、筑波大学の学園祭。実行委員は学実委と呼ばれる。1日では回りきれないほど規模が大きい。

た行

◆体専 【たいせん】

体育専門学群の略称。ここの友だちができるとう羨望のまなざしで見られる。

◆宅通 【たくつう】

自宅から大学へ通ってくる人の通称。詳しくは生活編で。

◆知識 【ちしき】

知識情報・図書館学類の略称。図情と言われることもある（図書館情報専門学群の名残）。

◆Twitter 【ついったー】

春日民の大事な情報ツール。ツイ廃、ふぁぼ、RT、TL、規制という言葉が常識となっていく日常。春日は筑波内でもツイッター普及率がすごい。先生方もやってらっしゃいます。また、知識情報・図書館学類の非公式のアカウントもありますのでご参照ください。

◆つくばっく

帰省先からつくばに戻ってくること。

◆TX 【ていーえっくす】

つくばエクスプレスの通称。秋葉原まで最速45分。宅通の中で利用する人もいる。

◆図情図書館 【とじょうとしょかん】

図書館情報学図書館の略称。同じく筑波大学附属図書館として、中央図書館、医学図書館、体芸図書館などが存在する。勉強したり昼寝したり、使い方は人それぞれ。

な行

◆7A205 【ななえーにーまるご】

春日エリア内で最も大きな教室。知識情報・図書館学類では1年生の間はここで授業を受けることが多い。

は行

◆平砂 【ひらすな】

平砂宿舎の通称。グラウンドスラムと呼ばれる部屋は色んな意味で有名。

◆ペデ 【ぺで】

ペDESTリアンデッキの略称。筑波大学の中を縦にまっすぐ通る。自転車と歩行者が通る。本学(二つ下の項目参照)への行き来するときによく使う。

◆ほけかん 【ほーかん】

保健管理センターの略称。学生は基本的に無料で診察を受けられる。

◆本学 【ほんがく】

第1、2、3エリア等の通称。春日エリアから自転車で約15分。1年生だと授業だけでかなりの時間を過ごす。

ま行

◆マジック 【まじっく】

行事等で苦労を共にした男女がカップルになったりすること。「やど祭マジック」、「クラ代マジック」、「雙峰祭マジック」などがある。詳しくは入ってから先輩に聞くと良い。

◆メ創 【めそう】

情報メディア創成学類の略称。創成と呼ぶ人もいる。

や行

◆やどかり祭 【やどかりさい】

入学して初めての大きな行事。宿舎祭とも言う。主に1年生を中心に出店したり御輿を作ったりする。ミスコン、もとい「ゆかコン」なるものが開催される。

ら行

◆ラーニングコモンズ 【らあにんぐこもんず】

通称LC。図情図書館の中に存在する。院や、学類の先輩方（ラーニングコモンジャー）が、課題の相談などによってくれたりする。パソコンなども置いてある。

◆ラウンジ 【らうんじ】

春日食堂横にある24時間自由に使えるスペース。パンやカップラーメン等の販売機がある、学生の強い味方。

◆リア充 【りあじゅう】

リアルが充実している人（広義リア充）、もしくは彼氏彼女がいる人（狭義リア充）のこと。対義語は非リア。

◆ループ 【るうぷ】

学内バスが通る道路のこと。けっして舗装は綺麗ではないが、ペデは坂道が多いので自転車だところらの道を好んで通る人が沢山いる。雨の日は水が溜まりやすいので水没に要注意。

編集委員

及川和也
小林正樹
藤原美由
増田空
辻和徳
石井瑛彦
金井啓太
平松淳
千葉勝仁
梅宮朝雪
脇田萌佳
松田かのん
若狭健太
澁川幸加
植木華織
渡辺百合香
榎本祐季
村木一
前田華子

この一冊がみなさんのお役に立てば幸いです。
一緒に学べる日を楽しみにしています。

2013.7 かすがらいふ 編集委員会一同

特別寄稿

長谷川秀彦先生
(知識情報・図書館学類 学類長)
山本幹雄先生
(情報メディア創成学類 学類長)

Special Thanks

歴代かすがらいふ編集委員の皆様
情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
春日地区支援室
春日地区学務課
情報メディア創成学類クラス代表者会議
知識情報・図書館学類クラス代表者会議
その他、ご協力いただいたすべての皆様

Kasuga Life

